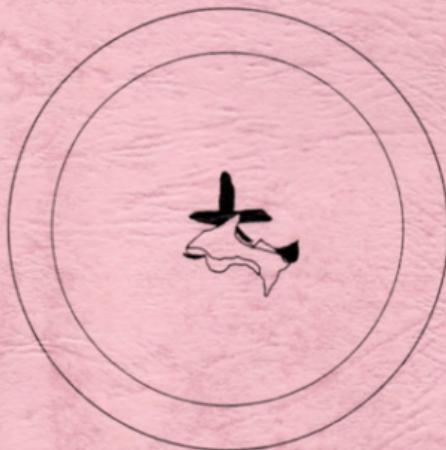


サンマンション南野建設に伴う

# 南野遺跡発掘調査報告書

—— 四條畷市南野所在 ——



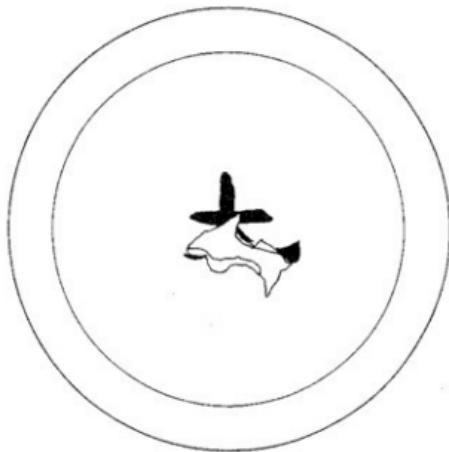
1995年3月

四條畷市教育委員会

サンマンション南野建設に伴う

# 南野遺跡発掘調査報告書

—— 四條畷市南野所在 ——



1995年3月

四條畷市教育委員会

## はしがき

本報告書に記す南野遺跡は四條畷市南野1丁目と2丁目に亘る地域である。このあたりは從来より遺跡の存在は予想されていたものの未調査のため、市内の文化財分布図にも遺跡としては記入されていない場所であった。

しかし今回のサンマンション南野の建設に伴う発掘調査によりその存在が明確になり南野遺跡として位置づけられたものである。

この地域は背後の山地より南西方向に広がる扇状地であり、古代には河内湖を見渡す住居地として最高の場所であったと想像されるところである。予想通り今回の調査において古墳時代の埴輪類、奈良時代の土器類や河川跡、鎌倉時代の瓦器碗などを発掘することができた。なかでも本市内では例の少ない奈良時代の製塩土器や墨書き土器の出土をみることができたのは非常に貴重なことである。

この南野遺跡の発掘調査によって四條畷市内の遺跡に新たな1ページを付加することができた訳である。

この南野遺跡の報告書を記するにあたり、ご協力をいただいた多くの関係者に心から御礼を申し述べると共に、特に橋本要氏には深甚なる謝辞を申し上げ感謝の意を表したい。

四條畷市教育委員会

教育長 木田 喜重

## 例　　言

1. 本書は、四條畷市教育委員会が平成6年度にサンマンション南野新築工事にかかる埋蔵文化財発掘調査として、橋本要氏より委託を受けて実施した。四條畷市南野2丁目1562-2・1562-3・1563-1・1564番地に所在する南野遺跡発掘調査の報告書である。
2. 調査は平成6年4月18日に着手し平成6年6月4日まで発掘調査を行い、その後平成7年3月24日まで遺物整理、報告書作成作業を行った。
3. 発掘調査は、四條畷市教育委員会歴史民俗資料館主任技師・野島稔を担当者とし、調査補助員として市来純平があたった。調査については、歴史民俗資料館・村上始の協力を得たほか調査事務等については歴史民俗資料館職員の協力を得た。
4. 現地調査の実施にあたっては、橋本昇治氏・橋本要氏・岩崎設計事務所岩崎万勉氏・才門建設株式会社・株式会社竹口文化財のご協力を得た。厚く感謝の意を表したい。
5. 発掘調査の進行・本書の作成にあたっては、次の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。(順不同・敬称略)

関西外国语大学 濑川芳則、大阪府教育委員会 井藤徹・堀江門也・中井貞夫・佐久間貴士・酒井泰子、東大阪市教育委員会 下村晴文、東大阪市郷土博物館 福永信雄、財団法人枚方市文化財研究調査会 櫻井敬夫・宇治田和生・三宅俊隆、寝屋川市教育委員会 塩山則之・浜田延充、大東市立歴史民俗資料館 黒田淳・中達健一、交野市教育委員会 真鍋成史。

6. 出土遺物の整理・実測などについては、野島稔・村上始・一山芳枝・佐野喜美・市来恵・伊野厚美・大塚早百合・上野由紀・宮崎康子・森優子・岡田恵子があたった。
7. 本書の執筆は野島稔が行った。

## 本文目次

### 例　　言

第1章　遺跡の位置と歴史的環境 .....	1
第2章　調査に至る経過 .....	6
第3章　調査の成果 .....	8
第1節　基本層序 .....	8
第2節　遺　　構 .....	15
河川 1 .....	15
掘立柱建物 .....	15
河川 2 .....	16
土　　壌 .....	16
井　　戸 .....	19
河川 3 .....	19
溝 .....	19
第3節　出土遺物 .....	20
河川 1 .....	20
河川 2 .....	21
河川 3 .....	29
第4章　まとめ .....	35
第5章　観察表 .....	37

## 挿図目次

- 第1図 南野遺跡周辺地形遺跡分布図 (S=1/25,000)
- 第2図 調査区位置図
- 第3図 土層断面図1
- 第4図 土層断面図2
- 第5図 南野遺跡遺構配置図
- 第6図 河川1内出土土器実測図
- 第7図 河川2内出土土器実測図
- 第8図 河川2内出土土器実測図
- 第9図 河川2内出土土器実測図
- 第10図 河川3内出土土器実測図
- 第11図 河川3内出土土器実測図

## 図版目次

- 図版1 南野遺跡周辺空中写真
- 図版2 調査前全景・調査精査スナップ
- 図版3 暗渠検出全景
- 図版4 調査地共同住宅予定地遺構検出全景
- 図版5 調査地遺構検出全景
- 図版6 調査地遺構全景
- 図版7 調査地遺構全景
- 図版8 調査地河川1・河川2遺構全景
- 図版9 調査地遺構全景
- 図版10 調査地遺構全景
- 図版11 調査地（地下合併処理槽）遺構全構
- 図版12 調査地（地下合併処理槽・擁壁）遺構全構
- 図版13 調査地（擁壁）遺構全構
- 図版14 河川1内出土土器
- 図版15 河川2内出土土器
- 図版16 河川2内出土土器
- 図版17 河川2内出土土器
- 図版18 河川2内出土土器
- 図版19 河川2内出土土器
- 図版20 河川2内出土土器
- 図版21 河川3内出土土器
- 図版22 河川3内出土土器
- 図版23 河川3内出土土器
- 図版24 河川3・河川2内出土土器

# 南野遺跡発掘調査報告書

## 第1章 遺跡の位置と歴史的環境

南野遺跡は、大阪府四條畷市南野1丁目から南野2丁目にかけて所在し、東西約320m・南北約300mの広がりをもつと推定されている遺跡である。

南野遺跡の所在する四條畷市は大阪府の北東部に位置し、東は奈良県生駒市に、西は寝屋川市、南は大東市、北は交野市に接している。

地勢の半分は生駒山系支脈の山地となり、主として花崗岩によって形成された地質である。調査地付近は、生駒山麓の沖積平坦地である。標高19~21m程度であり扇状地の末端で西方に大きく扇状地低地が開けている。河内潟に流入する旧大和川水系及び寝屋川水系の搬出する土砂によって堆積し、現在のようになったものと考えられ、調査地西方付近が丁度〔なぎさ〕線だったようである。従って地質的にも海や河川による土砂の堆積による沖積層・洪積層共に砂・粘土の互層状となり非常に複雑な堆積状況を呈している。生駒山系の西側斜面にある枚方台地には、北は八幡丘陵から南は忍岡丘陵までの淀川左岸にひろがる広大な丘陵・段丘がある。この枚方台地は大きく分けて北から枚方市の船橋川・穂谷川、交野市の天野川、寝屋川市の寝屋川、四條畷市の讃良川・清滝川・権現川という中小河川によって開かれたものである。この枚方台地には原始・古代の幾多の遺跡の存在が知られている。

枚方台地の遺跡には、旧石器時代からの遺跡が発掘調査によって明らかになってきている。旧石器時代遺跡としては、現在のところ25遺跡が知られており、特にナイフ形石器・チャート製有舌尖頭器が出土した枚方市楠葉東遺跡。ナイフ形石器・小型舟形石器・石核が出土した津田三ツ池遺跡。細石器・石核が出土した藤坂宮山遺跡。国府型ナイフ・石核が出土した交野市神宮寺遺跡。ナイフ形石器・細石器・削器・彫器・礫器等が出土した四條畷市更良岡山遺跡。木葉状尖頭器が出土した岡山南遺跡。有舌尖頭器が出土した南山下遺跡と四條畷小学校内遺跡が知られている。他に表面採集された寝屋川市打上、四條畷市忍岡古墳付近においてナイフ形石器。大東市宮田遺跡と北条遺跡からは、有舌尖頭器が採集されている。

縄文時代には、米粒文・山形文を施した押型文土器を特徴とする早期の土器が出土した遺跡は枚方市穂谷遺跡、交野市神宮寺遺跡、四條畷市田原遺跡、東大阪市神並遺跡がある。前期には石器のみ採集された津田三ツ池遺跡が知られている。

中期には渦巻文や半載竹管文をもつ船元式土器が出土した四條畷市南山下遺跡・砂遺跡、



第1図 南野遺跡周辺地形遺跡分布図

- |               |               |             |            |
|---------------|---------------|-------------|------------|
| 1. 譲良郡条里遺構    | 11. 南山下遺跡     | 21. 国中神社遺跡  | 31. 墓谷古墳群  |
| 2. 砂遺跡        | 12. 石室殿古墳     | 22. 人上遺跡    | 32. 飯盛山城跡  |
| 3. 小路遺跡       | 13. 錆田遺跡      | 23. 木間池北方遺跡 | 33. 城ヶ谷遺跡  |
| 4. 三昧頭遺跡      | 14. 中野遺跡      | 24. 城遺跡     | 34. 宮谷古墳群  |
| 5. 譲良川・更良岡山遺跡 | 15. 萩の堂古墳     | 25. 南野米崎遺跡  | 35. 北条東古墳群 |
| 6. 北口遺跡       | 16. 奈良井遺跡     | 26. 雁屋遺跡    | 36. 北条西古墳群 |
| 7. 奈良田遺跡      | 17. 四條畷小学校内遺跡 | 27. 伝楠木正行墓  | 37. 大持原古墳  |
| 8. 忍岡古墳       | 18. 正法寺跡      | 28. 北新町遺跡   | 38. 野崎城跡   |
| 9. 坪井遺跡       | 19. 清滝古墳群     | 29. 南野遺跡    |            |
| 10. 忍ヶ丘駅前遺跡   | 20. 岡山南遺跡     | 30. 近世墓地    |            |

交野市星田旭遺跡、多量の船元式や東海系の土器とともに貯蔵穴内からセタシジミ・カキ・クリが出土した寝屋川市讚良川遺跡があり、後期・晚期にはほぼ完全な高環形土器・深鉢形土器・注口土器・土製勾玉・石器などが出土する更良岡山遺跡があげられる。この更良岡山遺跡と中期の讚良川遺跡は一連の遺跡である。また岡山南遺跡と清滝古墳群においても石鏡と深鉢形土器が出土する。枚方市交北城ノ山遺跡において滋賀里式系の深鉢形土器を転用した埋甕遺構が発見されている。

弥生時代では、雁屋遺跡で昭和58年度調査区から前期初頭の高さ約70cmの大壺が出土しており、河内潟の最北端で発見され、北河内で最古の遺跡として知られている。また、四條畷小学校内遺跡からも前期中段階の壺・壺・石鏡と田原遺跡から前期末の壺が出土している。この時期の遺跡では、寝屋川市高宮八丁遺跡や大東市中垣内遺跡でも多量の土器・石器・木製品が出土している。

中期になると上記の遺跡以外に高地性集落として出現する寝屋川市太秦遺跡がある。また直径11mの巨大な堅穴住居をもつ田ノ口山遺跡、交北城ノ山遺跡では中期初頭から始まる方形周溝墓42基・堅穴住居8棟・土壙・高床建物跡が検出された。これらの遺跡は穂谷川水系沿いに立地している。

雁屋遺跡の昭和60年度調査区では中期中頃の方形周溝墓4基から合計20基の木棺墓と1基の土器棺を検出している。この1号方形周溝墓と2号方形周溝墓の共有する溝内から水銀朱を塗った壺3点、把手付鉢、水差形土器、木製四脚容器が出土している。

また平成4年度調査区では中期末の方形周溝墓西側周溝内底部から長さ18cm・幅3.5cmの鳥形木製品が出土している。鳥形木製品は平面・側面のいずれから見ても頭部と胴部を区別する削り込みがあり、形は立体的で写実的なもので喉の部分に幅0.5cmの細い溝があり、頭部と頸部を区別している。頭部は橢円形に整形し、くちばし部分に0.9cmの切り込み加工が施されている。胴の下に0.9cmの方形の杆頭をさしこむ孔をもつものである。

樹種はノグルミ材である。

また同一調査区で、中期の堅穴住居13棟が検出され、そのうちの1棟は火災による家屋であった。直径約5mで南側出入口をもつと推定される円形プランで、中央に橢円形の炉と直径約70cmの掘り方をもつ4本柱の住居であった。特に直径10cmの棟木と直径8cmの垂木材が炭化した状態で放射状に検出され、屋根には茅が葺かれ、その上に粘土を円形に重ねて使用していた。

住居内には壺・甕・鉢・蓋・高環等の土器と分銅形土製品・紡錘車・石鏡・石錐の石器・土製品が残され、火災の際持ち出すことのできなかった遺物が一括で出土している。

後期になると枚方市・交野市・寝屋川市の淀川左岸地域において遺跡が数多く点在する。代表的なものとしては、小形彷製鏡や分銅形土製品が出土した枚方市鷹塚山遺跡、六角形

の堅穴住居跡が発見された山之上天堂遺跡、鹿の絵を線刻した土器が出土した藤田山遺跡、住居と墓地をV字溝によって区画した星ヶ丘西遺跡、1棟の堅穴住居内から鉄鎌を含む53個の鉄器片が出土した星ヶ丘遺跡等があげられる。

古墳時代について見ると、眼下に淀川を見下ろす水運との関係を考えなければならない万年寺山古墳から三角縁四神四獸鏡・三角縁獸文帶三神三獸鏡など8面の銅鏡が出土している。又、直径25mの円墳と考えられ画文帶環状乳神獸鏡1面、銅鏡6本、鍔形石製品2個体他を出土した藤田山古墳、粘土都内から硬玉製勾玉・ガラス製小玉・碧玉製管玉・鉄劍・刀子が出土した交野市妙見山古墳、全長約90mの前方後円墳で後円部に長さ約6.3m、幅約1mの堅穴石室を今なお見ることのできる府指定史跡の忍岡古墳がある。

交野市の森古墳群から前方後円墳と円墳を含む6基の前期古墳が確認されており中期になると眼下の府立交野高校敷地内に前方後方墳1基・円墳3基・方墳1基の車塚古墳が確認されている。そのうち第1号古墳（東車塚古墳）で3基の埋葬施設が調査され甲冑・巴形銅器・筒形銅器・鏡・刀劍・装身具等が出土した。

後期になると生駒山系西麓に数多くの古墳群が分布する、特に大東市堂山古墳群、四條畷市清滝古墳群、更良岡山古墳群、交野市寺古墳群、倉治古墳群、枚方市中宮古墳群、白雉塚、比丘尼塚、北河内最大の横穴式石室をもつ寝屋川市寝屋古墳、終末期には国指定史跡の石宝殿古墳がよく知られている。

古墳時代の集落跡は、河内湖畔周辺で数多く発見されている。四條畷市岡山南遺跡の大溝内から切妻造りの家形埴輪に5個の堅魚木をつけたものや、円筒埴輪、衣蓋形埴輪、動物埴輪とともに木製下駄も出土している。忍ヶ丘駅前遺跡と南山下遺跡から5世紀後半の須恵器とともに動物埴輪（馬形・犬形・牛形・水鳥形・ニワトリ形）・人物埴輪・衣蓋形埴輪などの形象埴輪が出土している。中野遺跡においても5世紀後半の製塙土器や最古形式の須恵器とともに勾玉・臼玉・紡錘車・木製剣等が多量に出土している。隣接地の奈良井遺跡では実際に製塙作業を行った石敷製塙炉及び1辺約40mの方形周溝遺構の祭祀場を検出し、周溝内から多量の土器とともに手捏ね土器・人形土製品・動物形土製品・滑石製品がそれぞれ一括で出土している。また同一溝内から小型馬が埋葬されていた。

奈良時代の集落としては、今回報告する南野遺跡では、調査区の南側で東西方向に流れる河川と、河川の両岸側に掘立柱建物を検出している。

この時期の四條畷市内及び周辺の遺跡では四條畷市雁屋遺跡で奈良時代後半の土壙内から土師器椀が出土している。

枚方市船橋遺跡、九頭神遺跡、禁野本町遺跡から掘立柱建物が確認されている。なかでも禁野本町遺跡では掘立柱建物と倉庫8棟が確認されている。

寝屋川市打上遺跡では、奈良時代の建物群がみとめられ、沖積平野との比高20~30mの

高位段丘に立地している。また、長保寺遺跡では、奈良時代に集落が出現し、自然河川肩部で須恵器壺・壺・土師器壺・碗・皿が出土しこれらの土器の調整手法により平城宮Ⅲ～Ⅳの時期に比定されるものである。奈良時代の多数の土器がまとめて出土しているが、完形品ではなく破損品でこわれた土器を廃棄したものと考えられる。

大東市寺川遺跡では、河川内から7世紀後半の須恵器壺・土師器壺などの土器が出土している。

南野遺跡出土の土師器壺A及び土師器壺Cの底部外面に「大」と墨書きしているように、枚方市禁野本町で須恵器壺B底部外面に「金」、招提中町遺跡では須恵器壺B底部外面に「福持」・土師器壺底部外面に「伊奈持」と墨書きされている、また壺には「・人磨呂」の刻書土器も出土している。

6世紀中頃の仏教伝来や埋葬思想などによって、僧侶や貴族などの間で火葬がおこなわれはじめるなど葬制が大きく変化する。火葬した人骨は蔵骨器に納めて土中に埋葬されるようになる。四條畷市上清流遺跡では、土壤の中に甕を蔵骨器に転用して火葬骨を納めている。枚方市宮山遺跡では、瓦で構を作った蔵骨器が出土している。交野市滝ヶ広遺跡では平安時代の富寿神宝50枚を入れた蔵骨器が出土している。交野市郡衙跡では須恵器・土師器・瓦が多量に出土している。

寺院跡としては、正法寺・讃良寺・高宮廃寺・太秦廃寺などが丘陵地帯に点々と存在している。特に正法寺跡は薬師寺式の伽藍配置であると推定される。最近の調査では、奈良時代（8世紀）の掘立柱建物と平安時代中期（10世紀前半以降）の基壇を検出し、創建時の素弁蓮華文軒丸瓦・均正唐草文軒平瓦が出土した。基壇の横から検出した土壤内から10世紀前半の土師器・黒色土器が数多く出土し、そのうちの土師器壺の底部外面に正方寺と記されていた。

この平安時代には岡山南遺跡から掘立柱建物跡とともに方形板枠井戸を検出し、井戸内から黒色土器20点、土師器21点、縁釉皿1点、高壺1点、石窓1点、釣瓶1点が出土した。この黒色土器の底部外面は「高田宅」「福万宅」と墨書きされている。

鎌倉時代から室町時代の遺構は各市においてよく知られている。四條畷市では上清流遺跡において、寿永三年（1184年）の木簡のほか、下駄、箸、漆器、金箔塗り光背、木製聖観音立像、人形等の木製品と瓦器碗・土師器皿・白磁・砥石・硯などが旧河川の斜面に投棄された状態で発見された。またその近くから13世紀末の大和型瓦器碗を焼いた半地下式窯3基を検出している。

この付近は、南北朝争乱の際の舞台の一つとなっており、伝楠木正行や伝和田賢秀の墓など遺跡が多く、史跡として指定されている。

戦国時代では、三好長慶の居城であった飯盛城・キリシタンで有名な三箇城がある。

## 第2章 調査に至る経過

南野遺跡は、四條畷市南野2丁目1562-2・1562-3・1563-1・1564番地に位置する東京湾海拔21メートルの水田地で発見された古墳時代後期、奈良時代、鎌倉時代の三時期の複合遺跡である。

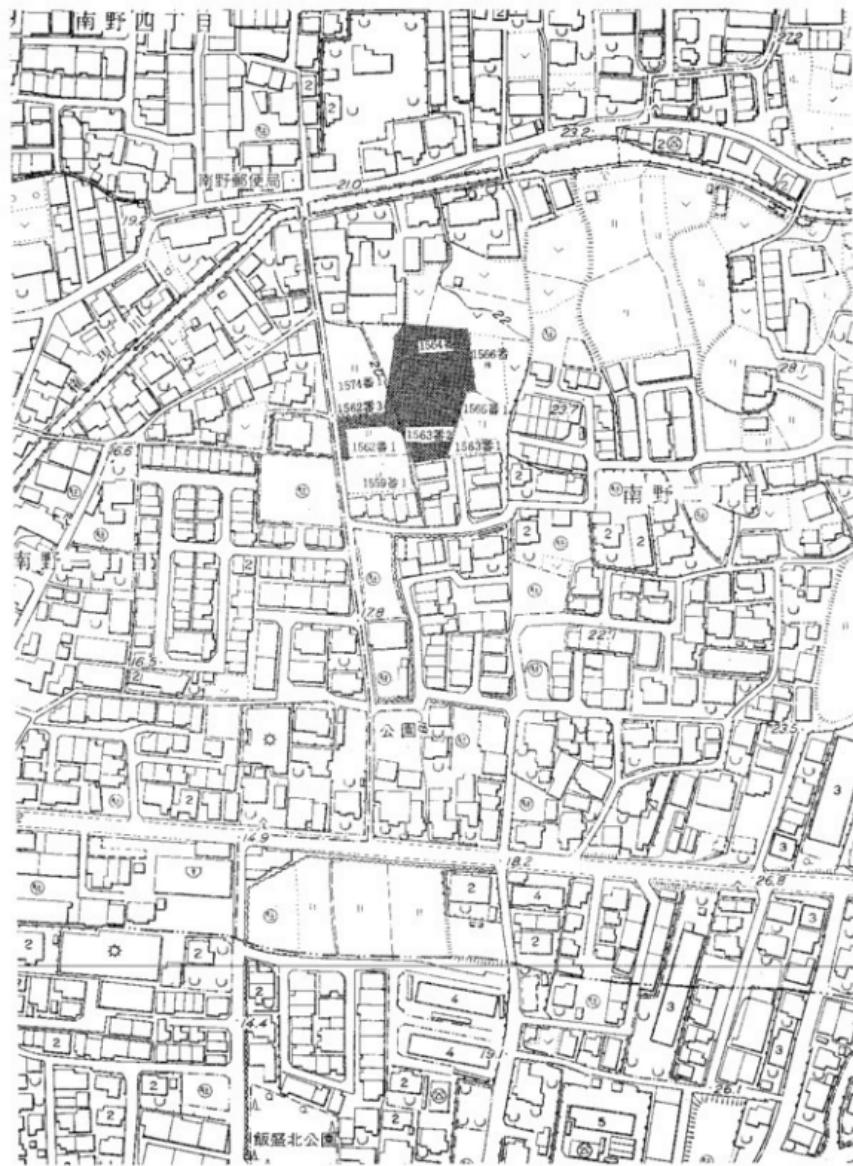
この地域は、大阪府教育委員会発行の大坂府文化財分布図（1991年3月）では周知の遺跡として知られていない場所であった。

平成5年7月20日に四條畷市南野2丁目1562-2・1562-3・1563-1・1564番地の用地において四條畷市南野1丁目11番15号橋本要氏から共同住宅建設予定の計画が四條畷市に提出され、各関係部局との事前協議が行われた。四條畷市教育委員会文化振興室歴史民俗資料館では今回の共同住宅予定地に四條畷市開発指導要項に基づき遺構・遺物の有無を確認するため試掘調査が必要であることを申請者に説明した。その結果、平成5年12月1日に遺構・遺物の有無及び基本層序を正確に把握するための試掘調査を実施した。試掘調査はRC4階共同住宅予定地に幅1.3メートル、長さ2.0メートル、深さ1.3メートルの試掘穴3カ所と、地下合併処理槽予定地に幅1.0メートル、長さ1.7メートル、深さ1.2メートルの試掘穴1カ所の合計4カ所を設定し調査を行った。その結果建設予定地南端において、現地表面下55cmで灰色砂質土から土師器片が、その下層の地表面下95cmに黄色砂質土をベース面とする河川肩部を検出した。この河川の堆積土層の青灰色砂質土から古墳時代の土師器片が出土した。また地下合併処理予定地の試掘穴では現地表下で厚さ48cmの灰色砂質土及び暗褐色砂質土の2層にわたる遺物包含層を確認した。この遺物包含層から瓦器椀と銅鏡が出土した。ほかの試掘穴である建物予定地の中央部西端と北端の2カ所の試掘穴では明確な遺物包含層は確認されなかった。

試掘調査の結果にもとづいて計画建物の位置及び基礎構造等について協議を行った結果現位置での基礎構造の建物が計画されており、工事によって遺構の破壊が想定される部分について発掘調査の必要がある旨を伝えた。

平成6年2月9日付けで文化財保護法第57条第1項に基づく埋蔵文化財発見の届出が提出され、橋本要氏と四條畷市長森本稔と埋蔵文化財発掘調査実施計画にもとづき発掘調査委託契約書を締結し発掘調査を実施することになった。

発掘調査は平成6年4月18日に着手し6月4日までに発掘調査における作業を終了し、平成7年3月24日まで遺物の整理作業を終了した。



第2図 調査区位置図

## 第3章 調査の成果

調査地点は、四條畷市南野2丁目1562-2・1562-3・1563-1・1564番地で平成5年まで水田地であった。

今回の調査は、RC4階共同住宅建物及び地下合併処理槽、四條畷市道南野2丁目2号線からの進入口のL型側溝付動式擁壁予定地、L型擁壁である。工事によって遺構の破壊が想定される部分の全面発掘調査である。調査区を国土平面直角座標値（第VI系）を用いてX軸とY軸で区画設定を行った。また方位は磁北を示し水準値はT.P値（東京湾平均海水面値）の測定を用いた。

### 第1節 基本層序

今回の調査区で調査を行った堆積土層は次のとおりである。なお調査区は地山と考えられる浅黄橙色砂質土7.5Y8/4層は地形に沿って南西にゆるやかに傾斜している。南野2丁目1564番地の水田上面はT.P+21.10mで、調査区のなかで北側の水田が最も上位にある。また南野2丁目1563-2番地の水田上面はT.P+20.60mであった。南野2丁目1562-2番地の水田上面はT.P+19.55mで調査区の中で最も低い水田であった。南野2丁目1564番地と1563-2番地の水田の基本層序は異なっているためそれぞれの基本層序を記入する。

#### ◎南野2丁目1564番地

第1層 耕土、上面はT.P+21.10mで厚さ20cm、平成5年まで耕作されていた。

第2層 床土、厚さ10~15cm。

第3層 灰白色砂層10YR8/2、上面はT.P+20.80mで厚さ35cm、耕作に伴う溝を検出。近世から近代の陶磁器片が出土。

第4層 黄灰色砂質土2.5Y6/1、T.P+20.50mで厚さ10~20cm。

第5層 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4、厚さ4~10cm。

第6層 オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3、T.P+20.35mで厚さ20~45cm。奈良時代の河川2及び鎌倉時代河川3の検出面上面を覆っている堆積土である。

#### ◎南野2丁目1563-2番地

第1層 耕土、上面はT.P+19.55mで厚さ20~25cm、平成5年まで耕作されていた。

第2層 床土、厚さ6cm。

第3層 にぶい黄色砂質土2.5Y6/4、上面はT.P+19.30mで厚さ10~16cm。近世の耕作に伴う溝3条、幅45~60cm・深さ14cmを検出。

第4層 灰黄色砂質土2.5Y6/2、上面はT.P+19.20mで厚さ16~20cmで地山に至る。地山面は、T.P+18.78mである。

# 層序

第3図 アベ  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 床土
- 3 淡黄色砂質土2.5Y 7/4
- 4 淡黄色砂質土2.5Y 8/6
- 5 黄色砂質土2.5Y 7/2
- 6 白黄色砂質土10Y R 8/2
- 7 黄色砂質土10Y R 5/1
- 8 にいわゆる黄色砂質土10Y R 5/4
- 9 オリーブ色砂質土2.5Y 4/3
- 10 にいわゆる黄色砂質土10Y R 4/3
- 11 黄色砂質土10Y R 4/2
- 12 灰色砂質土10Y R 4/1
- 13 灰色砂質土10Y R 3/1
- 14 黑褐色砂質土10Y R 2/1
- 15 黑褐色砂質土6B G 5/1

第3図 イエ～  
南野2丁目1563番2

- 1 素土
- 2 床土
- 3 a灰白色砂2.5Y R 8/2
- 2 b灰白色（やや砂質）2.5Y R 8/2
- 3 a淡黄色砂質土2.5Y 8/3
- 3 a b淡黄色砂質土（やや砂質）2.5Y 8/3
- 3 b d淡黄色砂質土2.5Y 8/2
- 4 淡黄色砂質土2.5Y 8/1
- 5 灰白色砂2.5Y 8/1
- 6 灰白色砂2.5Y 8/2
- 7 淡黄色砂質土2.5Y 8/4
- 8 淡黄色砂質土2.5Y 7/4
- 9 淡黄色砂質土2.5Y 5/1
- 10 淡黄色砂質土2.5Y 5/3
- 11 淡黄色砂質土2.5Y 5/1
- 12 淡黄色砂質土2.5Y 5/3
- 13 にいわゆる灰色砂質土2.5Y 5/1
- 14 白黄色砂質土2.5Y 5/1
- 15 淡黄色砂質土2.5Y 7/3
- 16 黑褐色砂質土2.5Y 3/1
- 17 明黄色砂質土2.5Y R 7/2
- 18 灰褐色砂質土2.5Y 5/1
- 19 黑褐色砂質土2.5Y 7/4
- 20 黑褐色砂質土2.5Y 5/3
- 21 淡黄色砂質土2.5Y 7/4
- 22 淡黄色砂質土2.5Y 5/3
- 23 明褐色砂質土（やや砂質）2.5Y 7/6
- 24 灰褐色砂質土2.5Y 5/4
- 25 黄褐色砂質土2.5Y 5/3
- 26 #リード色砂質土2.5Y 4/3
- 27 明黄色砂質土2.5Y 7/6
- 28 灰白色砂土層

第3図 エ～カ  
南野2丁目1563番2

- 1 素土
- 2 床土
- 3 a白黄色砂2.5Y 8/2
- 3 b d黄褐色砂質土5.7 Y 7/2
- 4 灰白色砂質土2.5G Y 8/1
- 5 淡黄色砂質土5.7 Y 7/7
- 6 にいわゆる黄色砂質土2.5Y R 6/4
- 7 にいわゆる灰色砂質土2.5Y R 6/2
- 8 灰褐色砂質土10Y R 4/2
- 9 灰褐色砂質土10Y R 7/2
- 10 灰色シルト層5.7 Y 4/
- 11 灰褐色シルト層5.7 Y 6/2
- 12 黄灰色シルト層5.7 Y 5/1
- 13 黄褐色砂質土2.5Y 7/4
- 14 黄褐色砂質土2.5Y 6/2
- 15 淡黄色砂質土2.5Y 7/4
- 16 黄褐色砂質土2.5Y 6/2
- 17 淡黄色砂質土2.5Y 7/3
- 18 にいわゆる黄色砂質土2.5Y 6/3

第3図 カ～ホ  
南野2丁目1563番2

- 1 素土
- 2 床土
- 3 灰白色砂層2.5Y 8/2
- 4 灰白色砂質土2.5Y 7/2
- 5 淡黄色砂質土2.5Y T 7
- 6 にいわゆる黄色砂質土2.5Y 6/4
- 7 灰白色砂質土2.5Y 6/2
- 8 灰オリーブ色砂質土2.5Y 4/2
- 9 灰白色砂質土2.5Y 4/2
- 10 灰白色砂質土2.5Y 4/2
- 11 灰白色砂質土2.5Y 5/1
- 12 淡黄色砂質土2.5Y 5/1
- 13 にいわゆる灰色砂質土2.5Y 5/1
- 14 黄褐色砂質土2.5Y 4/2
- 15 黑褐色砂質土2.5Y 4/2
- 16 黄褐色砂質土2.5Y 4/2
- 17 黄褐色砂質土2.5Y 4/2
- 18 黄褐色砂質土2.5Y 4/2
- 19 黄褐色砂質土2.5Y 4/2
- 20 灰白色砂層NT（地山）

第6図 明黃褐色砂質土10Y R 7/6

- 7 黄褐色砂質土10Y R 7/8
- 8 にいわゆる黄色砂質土（やや砂質）10Y R 7/2
- 9 灰褐色砂質土10Y R 6/2
- 10 黄褐色砂質土10Y R 8/6
- 11 明黄色砂質土10Y R 7/7
- 12 黄褐色砂質土（シルト層）10Y R 6/1
- 13 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 14 にいわゆる黄色砂質土10Y R 4/3
- 15 黄褐色砂質土10Y R 4/3
- 16 灰白色砂層NT（地山）

第3図 シ～セ  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 床土
- 3 黄褐色砂質土2.5Y 7/2
- 4 にいわゆる黄色砂質土2.5Y 4/4
- 5 淡黄色砂層2.5Y 7/4
- 6 黄褐色砂質土2.5Y 6/1
- 7 黄褐色砂質土2.5Y 6/1

第4図 セ～ア  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 床土
- 3 黄褐色砂質土2.5Y 7/2
- 4 黄褐色砂質土2.5Y 6/1
- 5 #リード色砂質土2.5Y 4/3
- 6 にいわゆる黄色砂質土2.5Y 4/3
- 7 黄褐色砂質土2.5Y R 7/2
- 8 にいわゆる黄色砂質土10Y R 5/4
- 9 黄褐色砂質土10Y R 4/4
- 10 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 11 にいわゆる黄色砂質土10Y R 5/4
- 12 黄褐色砂質土10Y R 4/4
- 13 にいわゆる黄色砂質土10Y R 4/4
- 14 灰白色砂質土2.5Y 8/4（地山）

第3図 ク～ケ  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 a素土
- 2 b灰白色砂層2.5Y 8/8
- 3 灰白色砂質土2.5Y 7/1
- 3 にいわゆる黄色砂質土2.5Y 6/3
- 4 灰白色砂質土2.5Y T 1/1
- 5 灰白色砂質土2.5Y 6/1
- 6 灰白色砂質土10Y R 8/1
- 7 にいわゆる黄色砂質土10Y R 6/3
- 8 黄褐色砂質土（やや砂質）10Y R 8/1
- 9 にいわゆる黄色砂質土10Y R 7/2
- 10 灰白色砂質土2.5Y 8/1
- 11 黄褐色砂質土10Y R 5/2
- 12 淡黄色砂質土2.5Y 8/3
- 13 明褐色砂質土2.5Y 7/4
- 14 黄褐色砂質土2.5Y 6/2
- 15 淡黄色砂質土2.5Y 7/4
- 16 黄褐色砂質土2.5Y 6/2
- 17 淡黄色砂質土2.5Y 7/3
- 18 にいわゆる黄色砂質土2.5Y 6/3

第3図 ゾ～タ  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 床土
- 3 黄褐色砂質土2.5Y 8/6
- 4 成色砂2.5Y 8/4
- 5 黄色シルト層2.5Y 8/6
- 6 にいわゆる黄色砂質土10Y R 7/2
- 7 黄褐色シルト層2.5Y 5/1
- 8 明褐色シルト層2.5Y R 7/2
- 9 #リード色砂質土2.5Y 4/3
- 10 にいわゆる黄色砂質土10Y R 6/4
- 11 綠褐色砂質土10G 6/1
- 12 綠褐色砂質土（シルト層）2.5Y 7/2
- 13 灰褐色砂質土2.5Y 7/2
- 14 成色砂2.5Y 7/2
- 15 黄褐色砂質土10Y R 6/6
- 16 黄褐色砂質土10Y R 6/2
- 17 黄褐色砂質土10Y R 5/2
- 18 黄褐色シルト層10Y R 8/1
- 19 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 20 淡黄色砂質土10Y R 8/4

第3図 コ～サ  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 a床土 b b床土
- 3 灰白色砂層10Y R 8/1
- 4 にいわゆる黄色砂質土10Y R 7/2
- 5 にいわゆる黄色砂質土（やや砂質）10Y R 7/2

第4図 タ～ツ  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 床土
- 3 a黄褐色砂質土7.5Y R 7/8
- 3 b灰白色砂質土10Y R 4/6
- 4 黄褐色砂質土10Y R 8/6
- 5 黄褐色砂質土2.5Y 6/3
- 6 にいわゆる黄色砂質土10Y R 6/3
- 7 黄褐色シルト層2.5Y 8/6
- 8 黄褐色砂層10Y R 5/6
- 9 黄褐色砂質土10Y R 7/4
- 10 灰白色砂層10Y R 8/4
- 11 黄褐色砂質土7.5Y 8/2
- 12 黄褐色砂質土10Y R 7/1
- 13 黄褐色砂質土2.5Y 6/4
- 14 黄褐色砂質土10Y R 7/3
- 15 黄褐色シルト層2.5Y 7/2
- 16 灰白色砂層2.5Y 8/1
- 17 灰白色砂層2.5Y 7/1
- 18 灰白色シルト層2.5Y 7/2

第4図 シ～セ  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 床土
- 3 黄褐色砂質土2.5Y 6/1
- 4 黄褐色砂質土10Y R 6/1
- 5 #リード色砂質土2.5Y 6/1
- 6 にいわゆる黄色砂質土10Y R 6/1
- 7 黄褐色砂質土10Y R 6/1
- 8 灰白色砂層10Y R 6/1
- 9 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 10 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 11 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 12 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 13 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 14 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 15 黄褐色砂質土10Y R 5/4
- 16 灰白色砂層2.5Y 8/1
- 17 灰白色砂層2.5Y 7/1
- 18 灰白色シルト層2.5Y 7/2

第4図 セ～ア  
南野2丁目1564番

- 1 素土
- 2 床土
- 3 黄褐色砂質土2.5Y 5/4
- 4 黄褐色砂質土10Y R 6/4
- 5 にいわゆる黄色砂質土10Y R 6/3
- 6 黄褐色砂質土10Y R 6/3
- 7 黄褐色砂質土10Y R 7/1
- 8 灰白色砂層10Y R 7/1
- 9 黄褐色砂質土10Y R 7/1
- 10 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 11 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 12 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 13 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 14 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 15 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 16 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 17 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 18 黄褐色砂質土10Y R 7/2

第4図 テ～ナ  
南野2丁目1563番2

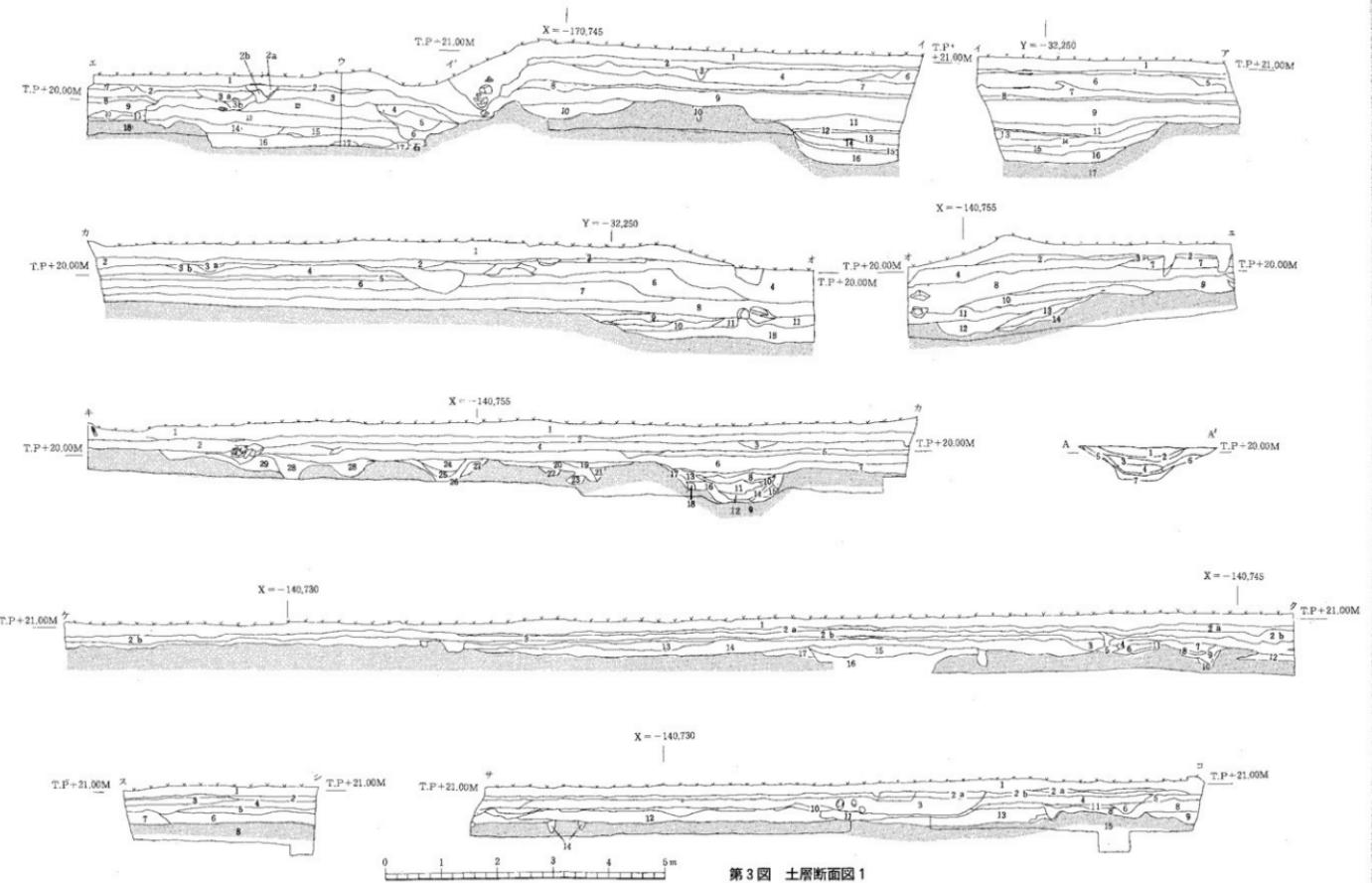
- 1 素土
- 2 床土
- 3 黄褐色砂質土2.5Y 8/6
- 4 灰褐色砂質土10Y R 5/1
- 5 灰褐色砂質土2.5Y 6/1
- 6 #リード色砂質土2.5Y 6/1
- 7 にいわゆる黄色砂質土10Y R 5/3
- 8 灰褐色砂質土10Y R 5/2
- 9 灰褐色砂質土10Y R 6/6
- 10 #リード色砂質土2.5Y 6/1
- 11 灰褐色砂質土2.5Y 6/2
- 12 灰褐色砂質土10Y R 6/2
- 13 黄褐色砂質土2.5Y 4/2
- 14 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 15 黄褐色砂質土10Y R 8/1
- 16 黄褐色砂質土10Y R 6/2
- 17 黄褐色砂質土10Y R 6/2
- 18 黄褐色砂質土10Y R 6/2

第4図 ゾ～タ  
南野2丁目1563番2

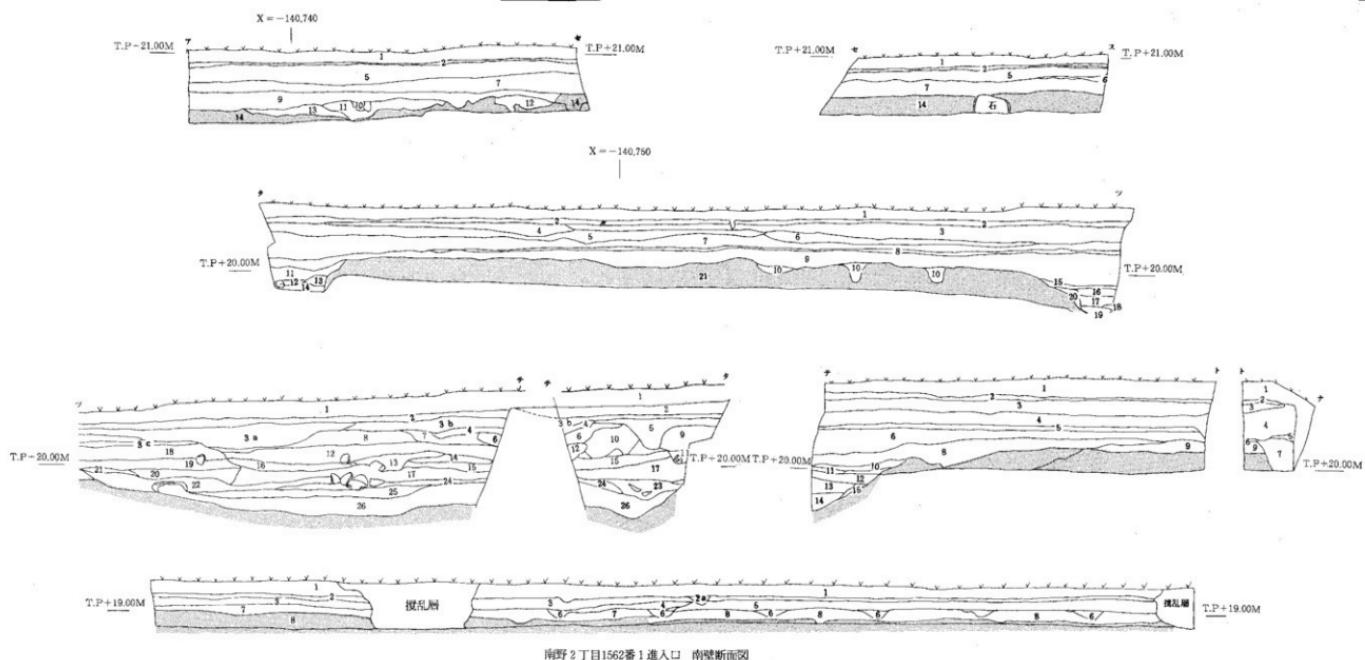
- 1 素土
- 2 床土
- 3 a灰白色砂質土2.5Y 8/3
- 3 b白灰色砂質土2.5Y 8/1
- 3 c灰白色砂質土2.5Y 4/2
- 4 灰白色砂質土2.5Y 4/2
- 5 にいわゆる黄色砂質土2.5Y 6/4
- 6 淡黄色砂質土2.5Y 8/6
- 7 灰白色砂質土2.5Y 7/1
- 8 灰褐色砂質土2.5Y 6/4
- 9 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 10 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 11 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 12 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 13 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 14 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 15 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 16 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 17 黄褐色砂質土10Y R 7/2
- 18 黄褐色砂質土10Y R 7/2

第4図 ハ～A  
河川2号 東側断面

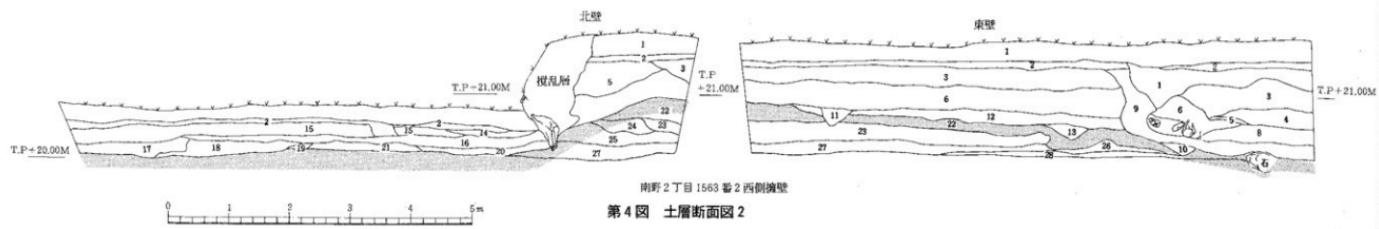
- 1 淡黄色砂質土2.5Y 8/3
- 2 灰白色シルト層2.5Y 8/1
- 3 灰褐色砂質土2.5Y 4/2
- 4 黄褐色砂質土2.5Y 4/1
- 5 淡黄色砂質土2.5Y 7/4
- 6 淡黄色砂質土2.5Y 6/2
- 7 黄褐色砂質土2.5Y 8/6
- 8 #リード色砂質土2.5Y 6/2
- 9 灰褐色砂質土10Y R 5/6
- 10 #リード色砂質土2.5Y 6/2
- 11 灰褐色シルト層2.5Y 6/2
- 12 灰褐色砂質土10Y R 6/2
- 13 黄褐色シルト層2.5Y 8/1
- 14 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 15 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 16 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 17 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 18 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 19 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 20 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 21 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 22 黄褐色砂質土10Y R 4/1
- 23 黄褐色砂質土10Y R 7/1
- 24 灰白色砂層2.5Y 8/1（地山）
- 25 灰白色シルト層2.5Y 8/1（地山）
- 26 黄褐色砂質土10Y R 7/6（地山）
- 27 淡黄色砂層2.5Y 8/6（地山）
- 28 灰白色シルト層2.5Y 7/1



第3図 土層断面図1



南野2丁目1562番1進入口 南壁断面図



第4図 土層断面図2

## 第2節 遺構

検出された遺構は古墳時代の河川、奈良時代の掘立柱建物・河川・溝・土壌・井戸・落ち込み状遺構、鎌倉時代の河川などである。遺構の概要を各時代順に記述する。

### 古墳時代

#### ◎ 河川1（第5図～第6図）

調査区  $X = -140,755 \cdot Y = -32,240 \sim Y = -32,250$  地区、すなわち共同住宅建物予定地の南端において検出した。

河川は東西方向に向かって掘られたもので検出肩部は東寄りで延長12.6m・幅1.3～2.3m・深さ35cmで断面は皿状を呈する。

河川底は東寄りでT.P +19.77m、西寄りでT.P +21.43m、比高差からみて東から西へ向かって流れている河川である。

河川底部では、類例からみてニワトリ形と思われる埴輪が出土している。筒状で外面に綾杉状に線刻をめぐらしているものである。また外面にヨコハケメを施し、断面台形のタガをもつ円筒埴輪も出土している。土師器壺・須恵器壺（第6図-3）はT.P +19.256mの位置で出土したもので多くの破片が出土し接合された、壺の口径は42.5cmで口縁部は〔く〕字状に外反する。

また、これらの土器の周辺で数多くの松皮や流木が河川肩部及び河川底部で出土した。

河川1は古墳時代後期に人为的に掘られた河川で一定期間機能していたことがあきらかである。

東側断面による堆積土層は右岸肩部の明褐色砂質土5YR7/2から埋まり、褐色砂質土5YR5/1、黒褐色砂質土5YR3/1で河川底部が堆積する。その後、河川左岸側で浅黄色細砂層5Y7/3と灰オリーブ砂層5Y5/3が堆積し河川幅が縮小しながら、浅黄色砂層5Y7/4が約18cmの厚みで堆積し、この中から上記で述べた埴輪及び須恵器・土師器壺とともに流木が多く出土した。その後灰白色・灰色シルト5Y8/1・5Y6/1と灰オリーブ砂質土5Y4/2が河川の肩部まで完全に埋まってしまい河川の機能は完全に果たさなくなる。

### 奈良時代

#### ◎ 掘立柱建物（第5図）

今回検出された建物は、いずれも掘立柱構造のものである。

出土した土器は僅少であるが河川2と同時期のものと考えられる。奈良時代河川2の右岸側において検出した建物で4棟柱の建物となる可能性がある。

河川2の左岸側、 $X = -140,750 \cdot Y = -32,240$  地区内で検出された桁行推定4間、梁行推定3間の南北棟建物で、西方・南端については不明であるが、柱掘方一辺の平均50cm・

深さ平均20cmを測る。確認された柱穴は全て柱根跡をとどめていない。

河川2の左岸側、 $X = -140,745 \cdot Y = -32,245$  地区内で検出されたものは桁行・梁行が不明である。柱掘方一辺の平均25cm・深さ12.5cmとかなり小さく、他の建物とやや様相を異にしている。河川2の右岸側、 $X = -140,740 \cdot Y = -32,235$  地点を中心に検出された。桁行・梁行不明の東西棟建物と推定される。柱掘方一辺の平均20cm・平均深さ20cmで柱穴の間隔から同一場所に2棟が立て替えられていた。

また、 $X = -140,730 \cdot Y = -32,240$  地区内で検出された柱穴が、一直線に等間隔(1.4m)に2間分検出された。桁行2間以上の掘立柱建物か2間以上の南北方向の據なのかは調査範囲内からは不明である。柱掘方一辺平均35cm・深さ25.5cmを計る。

$X = -140,725 \cdot Y = -32,225$  地区及び $X = -140,730 \cdot Y = -32,230$  地区で柱穴5ヶ所検出した。柱掘方一辺の平均45cm・深さ22cmで建物配置は不明である。

#### ◎ 河川2(第5図・第7図~第9図)

調査区 $X = -140,750 \cdot Y = -32,235 \sim X = -140,740 \cdot Y = -32,250$  地区すなわち共同住宅建物予定地の南東寄りにおいて検出した。河川は東西方向に向かって掘られたもので共同住宅予定地で延長18mまで確認した。

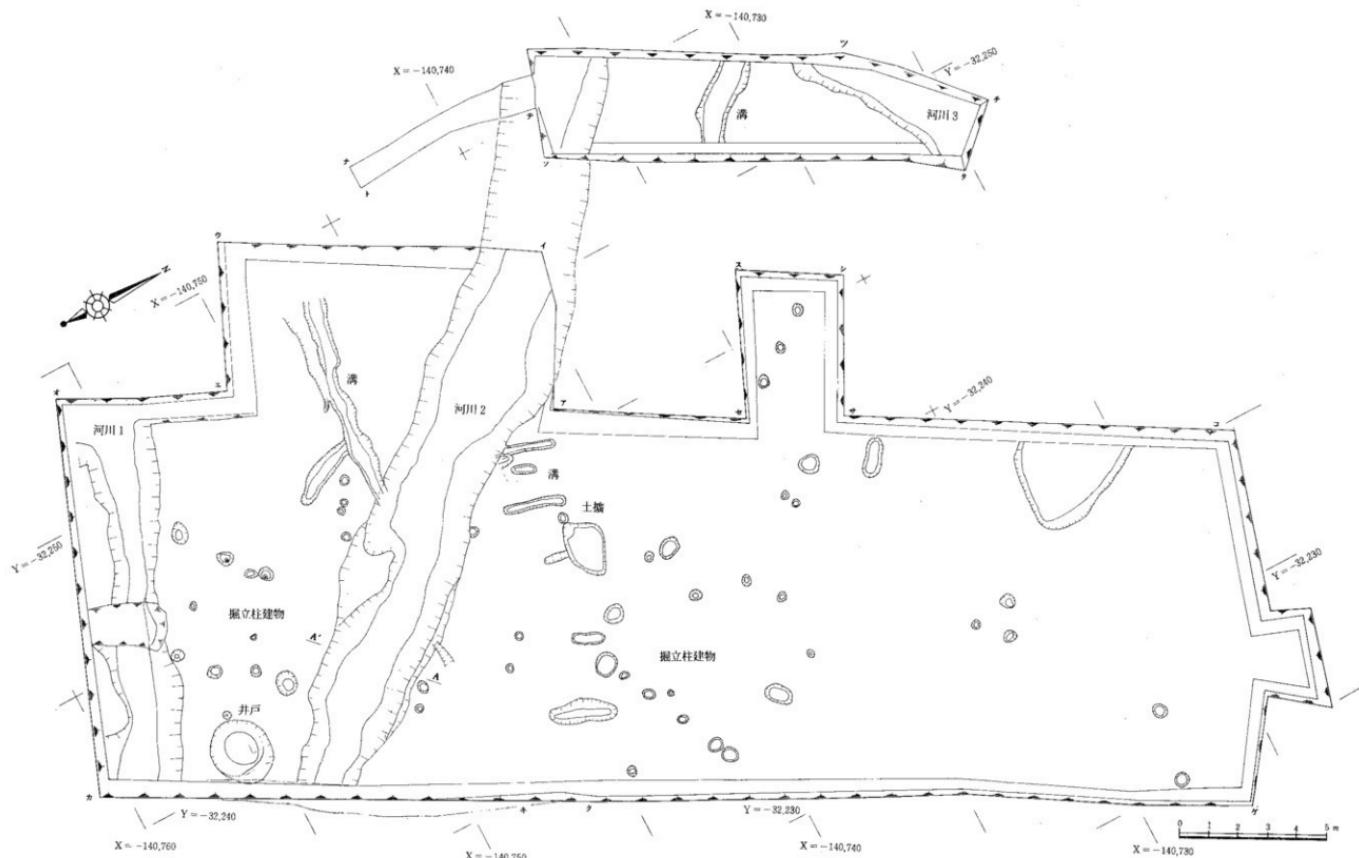
また $X = -140,735 \cdot Y = -32,255$  地区の地下合併処理槽及びL型擁壁予定地の調査区まで確認し、両調査で検出した河川の延長は25.5mである。検出肩部は東寄りでT.P + 19.884m、幅2.2m・深さ34cmで断面は皿状を呈する。河川底は東寄りでT.P + 19.541m共同住宅予定地西寄りで検出した肩部はT.P + 20.042m、幅4.2m・深さ0.8mである。また、合併処理槽の調査区で検出した河川2の肩部はT.P + 19.675m、幅3.5m・深さ0.8m、河川底T.P + 18.964mを計る。平均傾斜角度は6.5度である、すなわち河川底の比高差からみて、東から西へ向かって流れた河川である。

河川内では奈良時代中頃~後半、平城宮Ⅲ~Vの時期に比定される土師器壺A・壺C・壺B・皿A・椀・高壺・甕、須恵器壺A・壺B・皿A・壺・甕、製塙土器などが出土している。特に土師器壺A(第7図-6)の底部外面には〔大〕の字の墨書が認められる。また壺C(第7図-11)の底部外面でも〔大〕の字と思われる墨書が認められ、須恵器壺A(第8図-29)の底部外面にも墨書が認められるか判読できない。

#### ◎ 土壌(第5図)

$X = -140,740 \cdot Y = -32,240$  地区で検出した。検出面はT.P + 20.27m、東西1.7m・南北1.3m・深さ28cmの皿状の土壌である。

土壌内から遺物は全く出土していない。しかし、堆積土層は河川2の堆積土浅黄色砂質土5Y8/3と同様である。



第5図 南野遺跡遺構配置図

### ◎ 井戸（第5図）

X = -140,755・Y = -32,240地点南側で東西2m・南北2mの円形の掘方をもつ素掘り井戸である。検出面はT.P + 19.75m、深さ74cmである。土器は全く出土していない。

### 鎌倉時代

#### ◎ 河川3（第5図・第10図～第11図）

調査区のX = -140,725・Y = -32,250地点である。地下合併処理槽予定地において検出した。

河川3は、東西方向に向かって掘られたもので、延長6.4mまで確認した。共同住宅予定地北端のX = -140,720・Y = -32,230地区内の調査範囲内では河川3は検出されていないため、調査地の北端の方向に向かっていると思われるが、予想される位置は水田の斜面にあたる部分で近世の水田築造時に破壊されている可能性がある。同様に河川3を検出した下流側も現状水田比高差が1.5mである。

河川3の検出面はT.P + 20.20m、深さ28cmで、10～55cmの大きさの石を多数含んでおり河川3周辺で使用されていた石などを廃棄しつつ埋められたと推測される、その石と土師器小皿・土師器中皿・瓦器椀・瓦器皿・鍊鉢・羽釜・香炉・常滑焼甕・白磁などとともに古墳時代及び奈良時代後半の土師器・須恵器も混入している。

出土した瓦器椀の高台は断面三角形の貼り付けを呈し、口縁端部内面に一条の沈線と口縁外に5～6条の荒いへら磨き、見込みには連結輪状の暗文を施している。

13世紀後半の大和型瓦器椀であることからこの年代以降に河川3の廃棄が行われたものと思われる。

### ◎ 溝（第5図）

X = -140,745・Y = -32,245～Y = -32,250及びX = -140,740・X = -140,730調査区のY = -32,250のそれぞれの地区内で検出した。

東西方向のものと、南北方向のものがあり、いずれも座標方眼にちかい。規模は様々で幅0.6～1.2m内外、検出面からの深さ6～15cmのものが大半を占める。その性格は、主として水田の溝と考えておきたい。これらは全体として無秩序に存在するものではなく、調査区の南西部で検出している。

なお遺物はほとんど見られず、この地域が耕作された年代や素掘溝が掘られた時期を明らかにすることはできなかった。

### 第3節 出土遺物

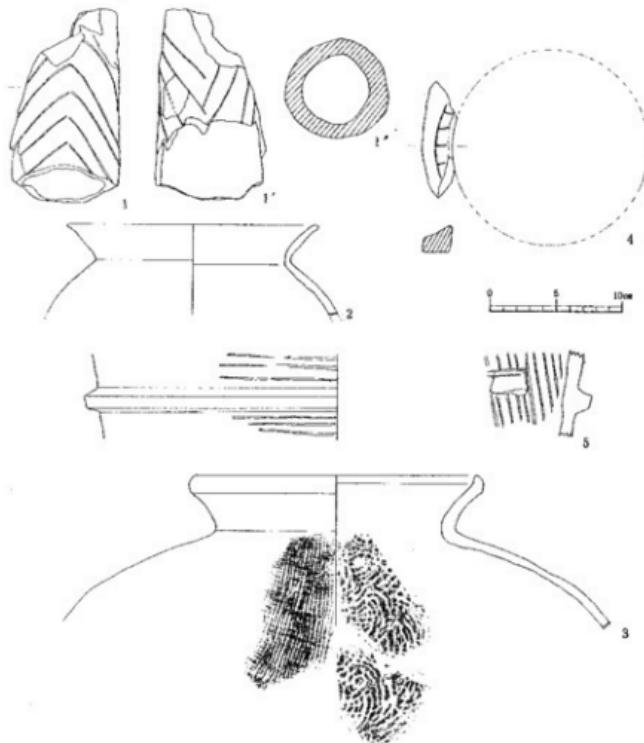
今回出土した遺物は各遺構に伴って土器等が出土した。河川1・河川2・河川3から出土したものである。時期的には奈良時代中頃～後半の土師器・須恵器を中心で、古墳時代・鎌倉時代のものがある。以下、遺構ごとに記述する。

#### 〔1〕 河川1（第6図・図版14）

河川1は $X = -140,755 \cdot Y = -32,240$ ～ $X = -140,755 \cdot Y = -32,250$ 地区で検出し東西方向に掘られた河川である。出土した遺物は古墳時代のもので埴輪・土師器壺・須恵器甕などが出土している。

##### 埴輪（第6図-1）

筒状で外面に綾杉状に線刻をめぐらしている。内面は粘土紐接合痕が観察される。ほかに破片はないがニワトリ形埴輪の頭部と思われる。



第6図 河川1内出土土器実測図

### 土師器壺（第6図-2）

口縁部は外反し、口縁端部は外方につまみあげている。表面は剥離しており調整は不明である。

### 須恵器壺（第6図-3）

口縁部は〔く〕字状に外反する。口縁端部内方をつまみあげ、外方は肥厚する。体部外面はタタキメ、内面は青海波文を施している。肩部に暗緑色の自然釉がかかっている。

### 埴輪（第6図-4）

線刻を施している。他に破片はないが韌であると思われる。

### 円筒埴輪（第6図-5）

外面にヨコハケメを施し、内面は斜めにハケメを施している。タガは断面台形でナテ調整をしている。

### [2] 河川2（第7図～9図・図版15～20・24）

河川2はX=-140,750・Y=-32,235～X=-140,740・Y=-32,250地区で検出した。

共同住宅建物予定地の南東寄りにおいて検出し、河川は東西方向に向って掘られたものである。

出土した土器は奈良時代中頃～後半のものである。

土師器壺A・壺C・壺B・皿A・椀・高壺・甕・製塩土器。須恵器壺A・壺B・皿A・皿B・壺・甕などが出土している。

#### (土師器)

壺A・壺C・壺B・椀・高壺・甕からなる。

- ◎壺Aはいずれも口縁部上半がわずかに外反し、口縁端部は内側に巻き込み気味である。
- ・口縁部内面に暗文を施すもの（6・8・9）がある。
- ・口縁部内面に暗文のないもの（10）がある。
- ◎壺Cは丸底気味の底部と屈曲しながら立ち上がる口縁部からなる。口縁端部は内傾する面をもつ。

壺Cと皿Aとの関係は数量や系譜の問題もあり分類しにくく、今後に問題を残すものである。

- ・口縁部内面に暗文をもつもの（7）がある。
- ・口縁部内面に暗文のないもの（11・12・13・14）がある。
- ◎壺Bは壺Aに高台が付いたものである。
- ・口縁部内面に暗文をもつ（15）がある。
- ◎皿Aは広く平らな底部に斜め上方に広がる口縁部をもつものである。
- ・口縁端部を内側に巻き込み気味にし内面に暗文をもつもの（17・18）がある。

・口縁端部に内傾する面をもち、口縁部外面に荒いへら磨きを施すもの（16）がある。

杯A（第7図-6）

口縁部上半は外反する、口縁端部は内側に巻き込み気味である。口縁部内面に一段の放射暗文を施し底部内面にラセン暗文を施す。底部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデを施すb。手法で調整している。

底部外面に〔大〕の字を墨書きしている。

杯C（第7図-7）

丸底気味の底部と屈曲しながら立ち上がる口縁部からなる。口縁端部は内傾する面をもつ。口縁部内面に一段の放射暗文がわずかに観察できる。底部内面にラセン暗文を施す。底部外面ナデ、口縁部ヨコナデを施すe手法である。

杯A（第7図-8）

口縁部上半がわずかに外反し、口縁端部は内側に巻き込み気味である。口縁部内面に一段の放射暗文を施し底部内面にラセン暗文を施す。底部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデを施すb。手法で調整している。

杯A（第7図-9）

口縁部上半がわずかに外反し、口縁端部は内側に巻き込み気味である。口縁部内面に荒い一段の放射暗文がわずかに観察できる。底部外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデを施すb。手法で調整している。

杯A（第7図-10）

口縁部上半がわずかに外反し、口縁端部は内側に巻き込み気味である。底部外面ヘラケズリ、口縁部ナデを施すb。手法である。この土器は完形品であり胎土は精選されており焼成も良好である。

杯C（第7図-11）

丸底気味の底部と屈曲しながら立ち上がる口縁部からなる。口縁端部は内傾する面をもつ。底部外面はナデ、口縁部外面上端をヨコナデするe手法で調整している。底部外面に墨書きしているが欠損しており判読しにくいが〔大〕の字と思われる。

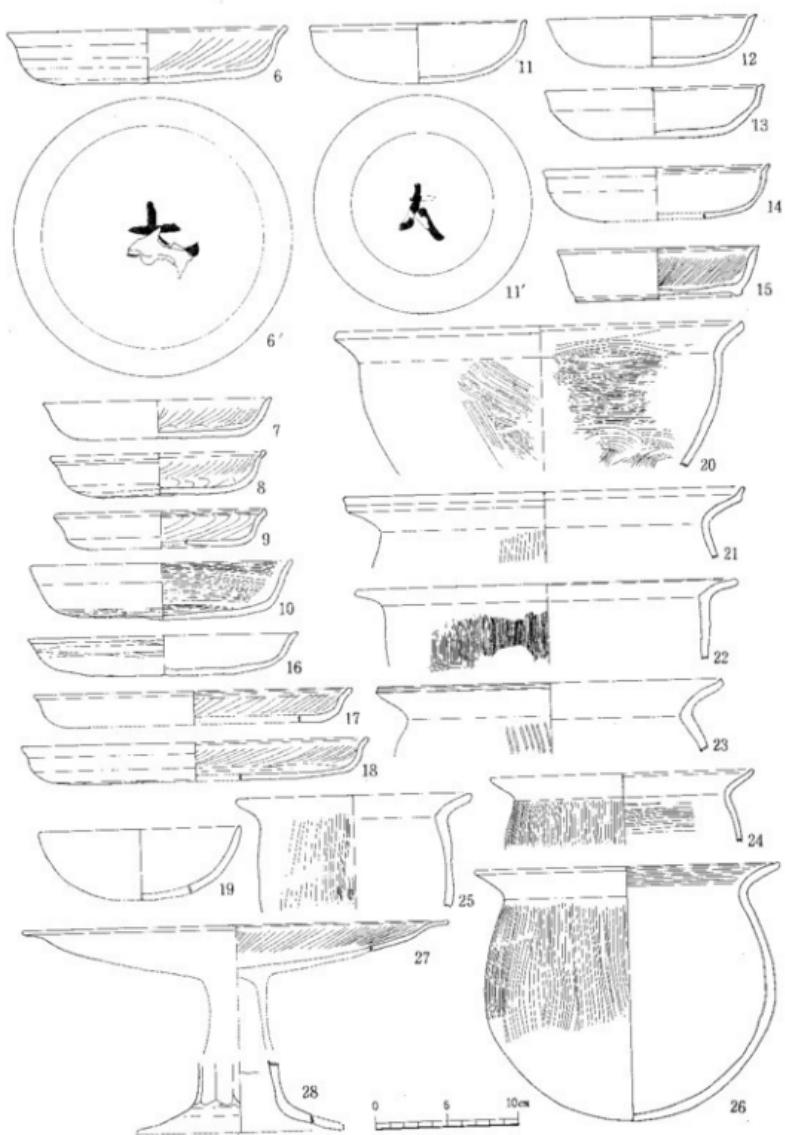
杯C（第7図-12・13・14）

丸底気味の底部と屈曲しながら立ち上がる口縁部からなる。口縁端部は内傾する面をもつ。底部外面はナデ、口縁部外面上端をヨコナデ調整している。e手法

杯B（第7図-15）

高台がついている。口縁部上半わずかに外反し、口縁端部は内側に巻き込み気味である。口縁部内面は密な一段の放射暗文を施す。口縁部外面ヨコナデを施している。

皿A（第7図-16）



第7図 河川2内出土土器実測図

広く平らな底部に斜め上方に広がる口縁部をもつものである。底部外面ナデ、口縁部外面荒いへら磨き調整を施すa<sub>1</sub>手法である。

#### 皿A（第7図-17）

広く平らな底部に斜め上方に広がる口縁部をもつものである。口縁端部内面に一段の放射暗文を施す。底部外面ヘラケズリ、口縁部外面ヨコナデ調整を施すb<sub>1</sub>手法である。

#### 皿A（第7図-18）

広く平らな底部に斜め上方に広がる口縁部をもつものである。口縁端部内面に一段の放射暗文を施す。底部外面ナデ、口縁部外面ヨコナデ調整を施すe手法である。

#### 椀（第7図-19）

丸底気味の底部から内傾しながら立ち上がる口縁部をもつ。口縁端部は丸くおわる。胎土は砂粒が多く、表面剥離のため調整の観察は困難である。

#### 壺（第7図-20）

ゆるやかに〔く〕字状に外反する口縁部をもつ。口縁部内面ハケメ、体部内面青海波文を施す。体部外面はハケメを施す。口縁部・体部外面に煤が付着している。

#### 壺（第7図-21）

〔く〕字状に外反する口縁部で口縁端部を内側上方に突出する。口縁部内外面ナデ、体部外面ハケメを施す。

#### 壺（第7図-22）

〔く〕字状に外反する口縁部をもつ。口縁端部上方をわずかに肥厚する。口縁部内外面ナデ、体部外面ハケメを施す。口縁部・体部外面に煤が付着している。

#### 壺（第7図-23）

〔く〕字状に外反する口縁部で口縁端部を内側上方に肥厚する。口縁部内外面ナデ、体部外面ハケメを施す。口縁部外面に煤が付着している。

#### 壺（第7図-24）

〔く〕字状に外反する口縁部をもつ。口縁端部上方をわずかに肥厚する。口縁部内外面ナデ、体部外面ハケメを施す。

#### 壺（第7図-25）

〔く〕字状に外反する口縁部をもち、口縁端部丸みをもって終わる。口縁部・体部外面に煤が付着している。

#### 壺（第7図-26）

丸底の底部から丸く立ち上がる体部をもち、口縁部丸みをもって〔く〕字状に外反する口縁端部は内側上方にわずかに肥厚する。口縁部内面ハケメ、体部外面ハケメを施す。体部から底部にかけて煤が付着している。

### 高坏（第7図-27）

偏平な坏部で、口縁端部内側に巻き込み気味である。坏部内面放射暗文を施す。

### 高坏（第7図-28）

高坏脚部である。ヘラケズリで面取りし断面多角形である。

#### （須惠器）

坏A・坏B・皿・壺類がある。

①坏Aは平底の底部と斜め上方に開く口縁部からなる。

②皿Aは平坦な底部と外反する口縁部からなる。

③坏Bは坏Aに高台がついたものである。

いずれも口縁端部は尖りぎみにおさめる。

### 坏A（第8図-29）

口縁部外面ロクロナデ、底部外面に墨書が認められるが判読できない。

### 坏A（第8図-30）

口縁部外面ロクロナデ、底部はナデ調整である。

### 坏A（第8図-31）

口縁部外面ロクロナデ調整、口縁部外面に重焼き痕が認められる。

### 坏A（第8図-32）

口縁部外面ロクロナデ調整、底部は欠損のため調整不明である。

### 坏A（第8図-33）

口縁部外面ロクロナデ調整、底部はロクロ削りをおこなっている。口縁部外面に重ね焼き痕が認められる。

### 皿A（第8図-34）

平坦な底部と外反する口縁部からなる。

口縁部外面はロクロナデ調整、底部外周ロクロ削りをおこなっている。

### 坏B（第8図-35）

口縁部外面ロクロナデ調整、底部は欠損のため調整不明である。

### 坏B（第8図-36）

口縁部外面はロクロナデ調整、底部はロクロ削りをおこなっている。

### 坏B（第8図-37）

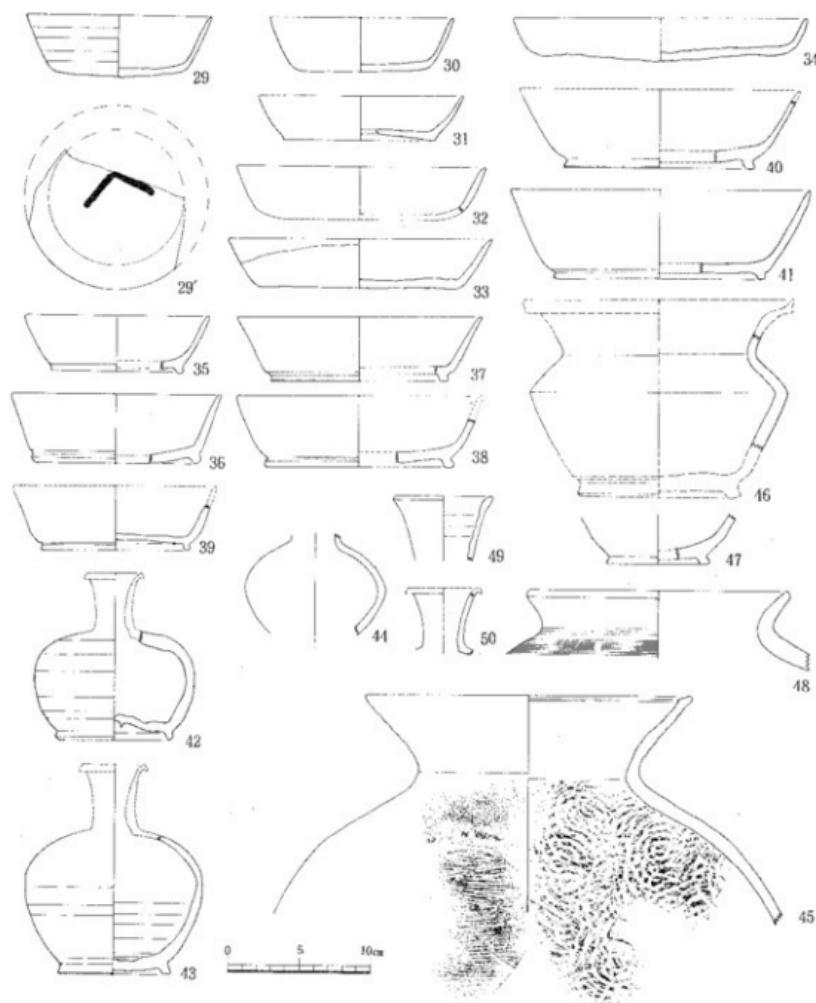
口縁部外面ロクロナデ調整、底部は欠損のため調整不明である。

### 坏B（第8図-38）

口縁先端部は欠損している。口縁部外面はロクロナデ調整、底部ロクロ削りを施す。

坏B (第8図-39)

口縁先端部は欠損している。底部をロクロ削り調整をおこなっている。口縁部外面に重ね焼き痕が認められる。



第8図 河川2内出土土器実測図

**壺B（第8図-40）**

口縁先端部は欠損している。口縁部外面はロクロナデ調整、底部ロクロ削りを施す。

**壺B（第8図-41）**

口縁部外面上半をロクロナデ調整、底部外面と口縁部下半にロクロ削りを施している。

**壺L（第8図-42）**

口縁部は欠損しているが肩の張った胴部に外反する口縁部をもつもので、体部上半をロクロナデ、下半にロクロ削りを施している。底部外面は、鋭く渦巻状に削り込まれている。

**壺L（第8図-43）**

口縁部は欠損しているが肩の張った胴部に外反する口縁部をもつものである。体部上半をロクロナデ、下半にロクロ削りを施している。底部外面ナデ調整をおこなっている。

**壺（第8図-44）**

口縁部と底部は欠損しているが球形の胴部をもつものである。体部上半をロクロナデ、下半にロクロ削りを施している。

**壺B（第8図-45）**

卵形の体部に内湾気味に立ち上がる口縁部からなる。体部外面タタキメ、体部内面青海波文を施している。焼成時での他の土器との接地痕が認められる。

緑褐色の自然釉がかかっている。

**壺Q（第8図-46）**

底部から斜め上に立ち上がる胴部と平坦な肩部をもつ。体部上半ロクロナデ、体部下半ロクロ削りを施している。

口縁部と底部は欠損している。

**壺L（第8図-47）**

小片であるが球形の胴部をもつと思われる。体部・底部外面ロクロナデ調整を施す。

**瓦質壺（第8図-48）**

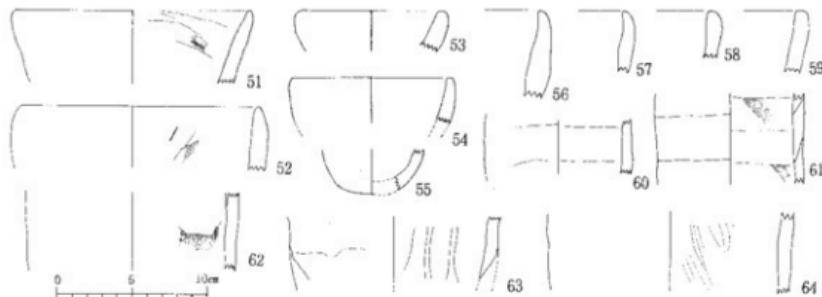
〔く〕字状に外反する口縁部をもつ、口縁端部丸みをもって先すぼまりにおわる。体部外面ハケメ調整。

**壺L（第8図-49）**

口縁部小片のみ残存している。外反しながら丸くおさめる口縁部をもつ。

**壺L（第8図-50）**

口縁部と体部の接合痕が認められる。口縁部外面ロクロナデ調整。



第9図 河川2内出土土器実測図

(製塙土器)

すべてが小片あるいは細片であり復元できる資料はなく全体の器形は不明である。いずれも器壁の保存状態は不良である。いわゆる焼塙土器でありその性質上、作りは粗雑で砂粒が多く認められる。

広範な生産地から搬入されたらしく口縁部形態・胎土に違いが認められる。色調は様々である。

(第9図-51) 口縁部が外反し、端部は尖る。外面に指オサエの凹凸が認められる。  
内面に斜指ナデが認められる。

(第9図-52) 口縁部は直立する。端部はさきすぼまりに丸くおさめる。内面に縦指ナデが認められる。

(第9図-53) 口縁部が外反し、端部は丸くおさめる。

(第9図-54) 口縁部は内脣し、端部はやや面をもっておわる。

(第9図-55) 底部片である。丸底と思われる。

(第9図-56) 口縁部はやや内脣しながら、端部を薄く尖らせる。

(第9図-57) 口縁部はやや内脣し、端部を丸みをもって尖る。外面に指オサエの凹凸が認められる。

(第9図-58) 口縁部は肥厚させて、端部は丸くおさめる。

(第9図-59) 口縁部わずかに外反する、端部は平坦である。

(第9図-60・61) 体部片である。内外面に粘土紐巻き上げ痕、外面に指オサエの凹凸が認められる。

(第9図-62・64) 体部片である。内外面に指オサエの凹凸を残す。

(第9図-63) 体部片である。内面に縦方向の指ナデ。

### 〔3〕河川3（第10図～11図・図版21～24）

河川3はX=-140,725・Y=-32,245～X=-140,725・Y=-32,250地区で検出した。東西方向に向って掘られたものである。

出土した土器は鎌倉時代のものである。土師器小皿・土師器中皿・瓦器椀・瓦器皿・練鉢・羽釜・香炉・常滑焼壺・白磁などが出土している。

古墳時代・奈良時代後半と思われる土師器・須恵器・壺等が混入している。

#### 土師器小皿（第10図-65）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至り端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

#### 土師器小皿（第10図-66）

ゆるやかな底部から急な角度で口縁部に至り端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

#### 土師器小皿（第10図-67）

底部外面中央部が凹んでいるため内面中央部が盛り上がっている。口縁端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

#### 土師器小皿（第10図-68）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至り端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

#### 土師器小皿（第10図-69）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至り端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

#### 土師器小皿（第10図-70）

ゆるやかな底部から急な角度で口縁部に至り端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

底部内面指頭圧痕が認められる。

#### 土師器小皿（第10図-71）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至り端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

口縁部外面下に一条の凹線がめぐる。

#### 土師器中皿（第10図-72）

底部外面中央部が凹んでいるため内面中央部が盛り上がっている。底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至り端部は丸くおさめる。

口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

### 土師器中皿（第10図-73）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至り端部は丸くおさめる。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施している。

### 土師器中皿（第10図-74）

口縁部付近は内外面ともにナデ調整。口縁端部は丸くおさめる。

### 瓦器皿（第10図-75）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至る。口縁部は外反し端部外方につまむ、口縁部内面と外面を強くヨコナデしている。底部外面に指頭圧痕が認められる。見込みにはジグザグ状の暗文を施している。

### 瓦器皿（第10図-76）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至る。口縁部は外反し端部外方につまむ、口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施し、底部外面に指頭圧痕が認められる。見込みにはジグザグ状の暗文を施している。楕円形の器形である。

### 瓦器皿（第10図-77）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至る。口縁部は外反し端部外方につまむ、口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施し、底部外面に指頭圧痕が認められる。見込みにはジグザグ状の暗文を施している。口縁部下外面に一部分ハケメが認められる。

### 瓦器皿（第10図-78）

底部からゆるやかな丸みをもって口縁部に至る。口縁部はナデによって強く外反する。口縁部付近は内外面ともにナデ調整を施し、底部外面に指頭圧痕が認められる。見込みにはジグザグ状の暗文を施している。

### 瓦器椀（第10図-79）

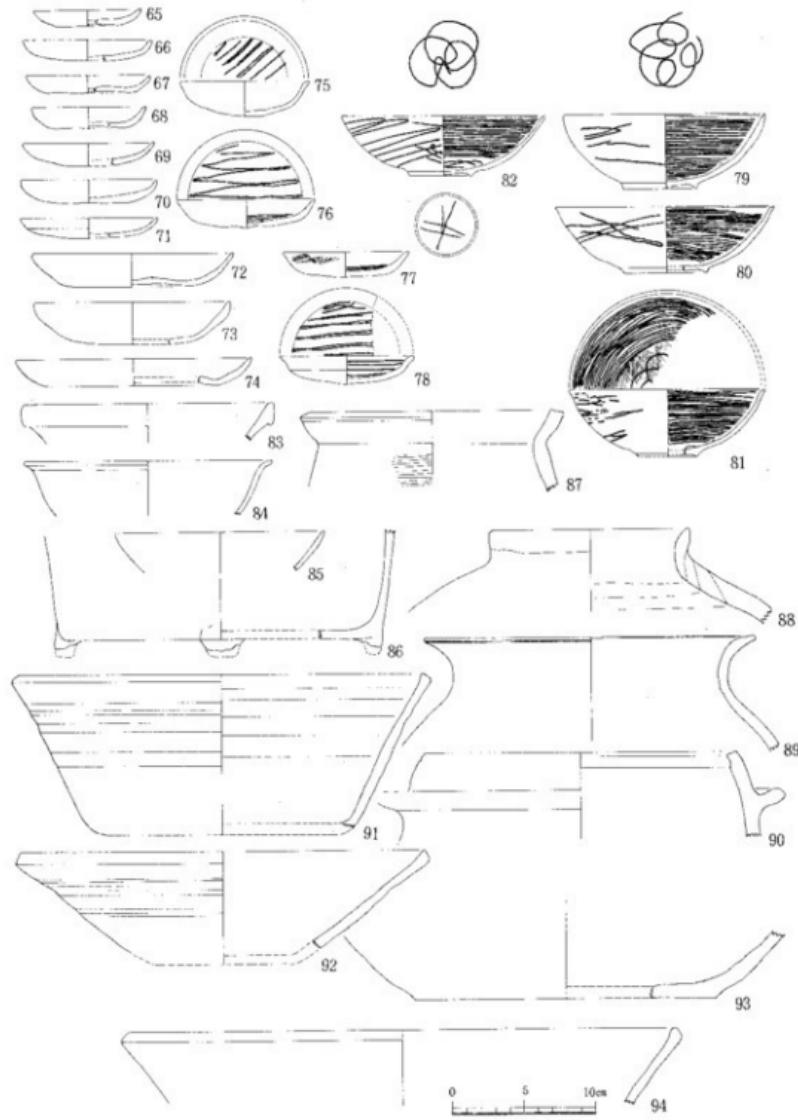
高台は粘土を貼り付け断面三角形を呈する。口縁端部内面に一条の沈線を施している。口縁部外面には6~7条の荒いへら磨き、内面はやや荒いへら磨きを施す。見込みには連結輪状の暗文を施している。外面に指オサエの痕跡を残す。

### 瓦器椀（第10図-80）

高台は粘土を貼り付け断面三角形を呈する。口縁端部内面に一条の沈線を施している。口縁部外面には5~6条の荒いへら磨き、内面にはやや荒いへら磨きを施す。見込みには連結輪状の暗文を施している。口縁部内面と外面を強くヨコナデし軽い稜をつけるもので、外面に指オサエの痕跡を残す。

### 瓦器椀（第10図-81）

高台は粘土を貼り付け断面三角形を呈する。口縁端部内面に一条の沈線を施している。口縁部内外面には荒いへら磨きを施し、内面にはやや荒いへら磨きを施す。見込みには連



第10図 河川3内出土土器実測図

結輪状の暗文を施している。口縁部内部と外面を強くヨコナデし軽い稜をつけるもので、外面に指オサエの痕跡を残す。

瓦器椀（第10図-82）

高台は粘土を貼り付け断面三角形を呈する。口縁端部内面に一条の沈線を施している。外面には荒いへら磨きを施し、内面にはやや荒いへら磨きを施す。見込みには連結輪状の暗文を施している。

底部外面に線刻が認められるが意味不明である。

白磁碗（第10図-83）

玉縁口縁部をもつものであるが小片である。

青磁碗（第10図-84）

口縁部外反するものであるが小片である。灰色がかった緑青色である。

青磁碗（第10図-85）

口縁部内面に櫛描文を施している。小片である。黄味がかった緑青色である。

香炉（第10図-86）

瓦質である。平たい底部に筒状の体部をもち、短い脚が3ヶ所につく。体部外面ヘラミガキ、内面はナデ調整をしている。口縁部は欠損している。

壺（第10図-87）

須恵器である。口縁部〔く〕字状に外反し端部は面をもち外方にわずかに肥厚する。口縁部内外面ナデ、体部ヨコハケメを施している。

壺（第10図-88）

口縁部が立ち上がり端部は丸くおさめる。口縁部内外面はナデ調整を施し、体部内面に粘土紐接合痕が認められる。緑褐色の自然釉がかかっている。

壺（第10図-89）

常滑焼である。丸みをもって外反する口縁をもつ。口縁端部内外面とも一条の沈線をめぐらしている。灰緑色の自然釉がかかっている。

羽釜（第10図-90）

瓦質である。内脅する頭部で、一条の沈線を施す。脅部は少し上向きで端部は丸くおさめる。

練鉢（第10図-91）

須恵器である。底部から斜め上方にひらき、口縁端部面をもち内方にわずかに肥厚する。

練鉢（第10図-92）

須恵器である。底部から斜め上方にひらき、口縁端部面をもち内方にわずかに肥厚させる。小片である。

練鉢（第10図-93）

須恵器である。底部から斜め上方にひらく器形である。口縁部欠損。

練鉢（第10図-94）

須恵器である。底部から斜め上方にひらく器形である。口縁部端面をもち内方にわずかに肥厚させる。小片である。

坏C（第11図-95）

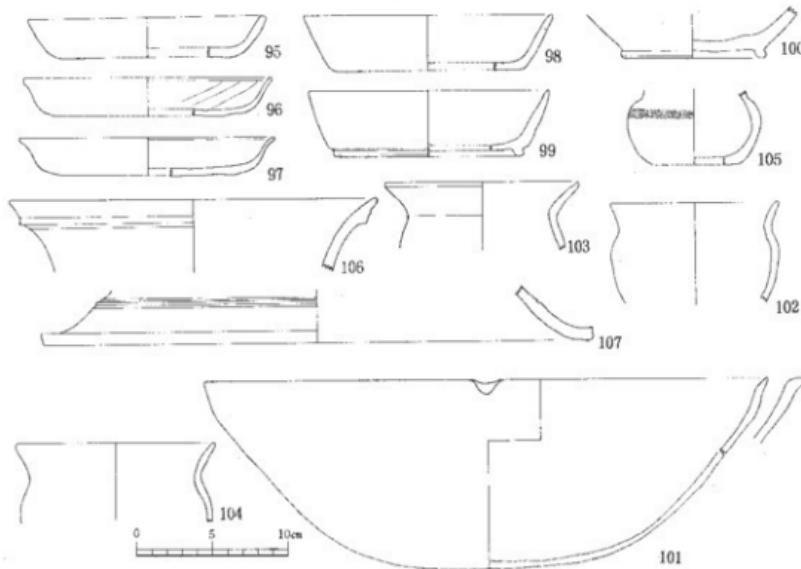
土師器である。平底気味の底部と屈曲しながら立ち上がる口縁部からなる。口縁端部はまるくおさめる。

底部外面はナデ、口縁部外面ヨコナデのe手法で調整している。

坏A（第11図-96）

土師器である。口縁部上半がわずかに外反し、口縁端部は内側に巻き込み気味である。口縁部内面に一段の放射状暗文を施す。

外面は底部ナデ、口縁部はヨコナデを施すe手法で調整している。



第11図 河川3 内出土土器実測図

### 杯A（第11図-97）

土師器である。口縁部上半がわずかに外反し、口縁端部はわずかに内側に巻き込み気味である。

外面は底部ナデ、口縁部はヨコナデを施すe手法で調整している。

### 杯A（第11図-98）

須恵器である。平底の底部と斜め上方に開く口縁部からなり、口縁端部は尖り気味におさめる。口縁部外面ロクロナデ調整をおこなっている。

### 杯B（第11図-99）

須恵器である。平底の底部と斜め上方に開く口縁部からなり高台がついている、口縁端部は尖り気味におさめる。口縁部外面ロクロナデ調整を施す。

### 壺（第11図-100）

須恵器である。底部のみ残存。

### 片口鉢（第11図-101）

土師器である。口縁部の小片であるが、丸みのある底部で斜め上方にひろがり、片口の口縁部をもち、先端で内傾する器形と思われる。口縁部外方につまみあげ、内外面ナデ調整を施している。

### 壺B（第11図-102）

土師器である。球形に近い胴部に外反する短い口縁部からなる。口縁部だけをヨコナデし体部はナデ調整を施している。

### 壺（第11図-103）

土師器である。丸みをもって外反する口縁部、端部は上方につまみあげる。口縁部内面に煤が付着している。

### 壺（第11図-104）

土師器である。丸みをもって外反する口縁部、端部は上方につまみあげる。内外面に煤が付着している。

### 壺（第11図-105）

須恵器である。口縁部を欠損する小片である。体部上半に波状文を施す。

### 壺（第11図-106）

須恵器である。外反する口縁部で端部は丸くおさめている。口縁端部下に断面三角形の突起を施す。

### 器台（第11図-107）

須恵器である。脚裾部のみの小片である。外方に開く脚裾部で、端部は面をもっておわる。裾部に二条の凹線を施す。

## 第4章 まとめ

南野遺跡は、今回のサンマンション南野の発掘調査までは遺跡として知られていない場所であった。この地域の既成集落は、旧水田面に盛土を行い基礎工事も盛土内で行われていたため遺跡の存在は不明であった。

今回の発掘調査の結果、東西約320m・南北約300mの範囲内で、古墳時代後期・奈良時代・鎌倉時代～室町時代にかけて複合する集落跡であることが明らかになった。

調査区内で検出した遺構・遺物をふまえて、四條畷市内及びその周辺地域の発掘調査の関連を考えてみたいと思う。

第1には、南野遺跡に古墳時代に人が初めて定住したのは、古墳時代後期の初め頃で、海拔21mの場所である。東側は生駒山系西側斜面で西側一帯は河内湖を眼下に望む最高の場所に立地していた。

検出した河川1は、幅1.3～2.3mの河川である。古墳時代後期以降に削平が行われているために上記の河川幅になっているが、もともと古墳時代には幅約3～4mの河川であった。生駒山系から流れる水をこの河川で受け、利用が行われていたのである。

この河川内から形象埴輪や円筒埴輪片が出土していることから、この近くに古墳時代中期～後期の横穴式石室をもつ古墳群が存在していたと思われる。

南野遺跡から、生駒山系西側斜面の南方約300mには、大東市墓谷古墳群・宮谷古墳群があり、また北側の四條畷市清瀧には、大上古墳群・清瀧古墳群があり、南野遺跡はそのほぼ中間に位置することから、古墳時代の集落跡だけでなく墓地群も存在していたことが今回の調査で明らかにされつつある。

第2には南野遺跡で検出した河川2とその河川内から出土した奈良時代中頃から後半にかけての土師器・須恵器・製塙土器についてである。

四條畷市内ではこれまで奈良時代の集落跡の遺構・遺物の出土はなく、今回の南野遺跡の調査で奈良時代を中心とする掘立柱建物跡及び旧河川の遺構が発見された。

南野遺跡で出土した土器は奈良時代中頃から後半にかけての土師器・須恵器が主体である。そのなかでも土師器壺C・壺A・壺B・といわれる土器は、古墳時代にはない器種で、金属器写しの新しい様相をもつ土器である。内面には放射暗文・ラセン暗文・連弧暗文、外面にはへら磨きを施し、金属器の形や光沢を忠実にうつした椀形をしている。これらは飛鳥時代に出現した土器である。

それらの土器も、奈良時代前半になると律令制度とともに規格性のある大小多様な法量の食器類が展開していったのである。南野遺跡の河川2から出土した土師器壺C・壺A・などは時代経過と量産化で皿形化したもの的一段の放射暗文・ラセン暗文などに金属器写

しの伝統を残している。そのような土師器坏をはじめ、皿・高坏・壺・製塙土器、須恵器坏・皿・壺・壺などが出土している。

そのなかで、土師器坏A（6）・土師器坏C（11）・須恵器坏A（29）に墨書きされた土器が出土した。墨書き土器は一般の集落においては8世紀頃に現われる。土器に記された墨書きは一字のものが圧倒的に多く、その中でも〔大〕という文字を記したもののが比較的多く見られるが、南野遺跡の坏A（6）にも見事な〔大〕の字が書かれている。また（29）のように判読できない文字もあり、なぜ土器に文字を記したのか、判読できない文字が本当に文字であるかは比較検討しなければならないであろう。

第3には、土器製塙の開始以来、製塙土器は消費地においても各時期を通じて出土するが、なかでも古墳時代の5世紀後半と奈良時代の8世紀に急増する。古墳時代の四條畷市でも各遺跡から馬の歯とともに多量の製塙土器が出土している。

南野遺跡で出土したものは奈良時代の焼塙容器である。その性質上作りは粗雑で砂粒も多く認められる。すべての個体は小片あるいは細片であり、復元はできないが、口縁部の形態や器壁の厚み、胎土、色調は様々である。塙は律令制度にともない重要な品目としてその生産と流通が国家的に管理・掌握されていたこともあり、複数の生産地から搬入されたと思われる。

製塙土器は運搬土器を兼ねていることは定説になってる。畿内の消費地でも普遍的に出土するが6世紀以降運搬容器の主流でなくなったはずの製塙土器が、なぜ8世紀に再び急増するのか今後に残す課題である。

第4は、当時の人々の暮らしはどうであったであろうか。貴族の食事は豪勢で主食は白米で副食は多彩であった、そして庭園で優雅に宴会を楽しんだであろう。箸が普及するのはこの頃からである。一方庶民の生活は、わびしい土間すまい、玄米に塙、それにゆがいた青菜や山菜がつく程度の貧しいものであったと思われる。

万葉の歌人、山上憶良の「貧窮問答の歌」は、貧窮者二人が互いにその生活を語りあう形式をとっており、〔風まじりに雨が降り、雨まじりに雪がふる夜は、どうしようもなく寒いので、堅塙をしゃぶり、糟湯酒をすすって、咳をし…………。〕と語り、もう一人は〔土間へ藁を敷き、ざこ寝をする。かまどには煙が立つこともなく、甑の中には蜘蛛が巣を懸けている始末。おまけに村長は、租税や庸役をになわせようと、せめたてる。〕と答える。貧窮をテーマとして歌っているものは万葉集において憶良だけである「堅塙」だとか「咳」とか「水鼻」「土間」などは庶民の貧しさをよくあらわしている。塙は奈良時代の人々だけでなく、現代人にとっても食膳に欠かせないものである。

四條畷市での奈良時代の遺跡は少なく、今回の発掘調査で掘立柱建物・土器・製塙土器が出土したことによって十分な情報を得たといえる。

## 第5章 土器観察表

造構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口器 〔 〕推定 ( )残高	色調	胎土	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
						素質 砂粒	外：外面 内：内面			
河川1	はにわ	1	ニワトリ	— (29.8)	淡灰褐色	やや粗 8mm以下 の砂粒含む	外：綾杉状に線 刻 内：粘土ひも接 合痕	やや硬	—	
		2	甕	[38.0] (6.7)	淡橙褐色	やや粗 3mm以下 の砂粒含む	外：表面剥離の ため調整不 明	やや軟	1/4	
	須恵器	3	甕	[42.5] (11.6)	灰色	緻密	外：タタキメ 内：青海波文	硬	1/3	暗緑色 の自然 釉
	はにわ	4	鞠	— (2.0)	橙色	やや密 3mm以下 の砂粒含む	外：線刻	やや軟	小片	
		5	円筒	— (6.7)	茶褐色	やや密 4mm以下 の砂粒含む	外：ヨコハケメ 内：ハケメ	やや硬	小片	
河川2	土師器	6	壺A	[19.6] 3.8	茶橙色	緻密 4mm以 下の砂 粒含む	外：b.手法 内：一段の放射 暗文 ラセン暗文	硬	1/5	墨書
		7	壺C	[15.9] 2.7	明茶橙 色	緻密 1mm以 下の砂 粒含む	外：e手法 内：一段の放射 暗文 ラセン暗文	硬	小	
		8	壺A	[15.1] 3.0	茶橙色	緻密 1mm以 下の砂 粒含む	外：b.手法 内：一段の放射 暗文 ラセン暗文	硬	4/5	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口徑高 〔推定 〔残高〕	色調	胎土	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
						素質 砂粒	外：外面 内：内面			
河川 2	土師器	9	环A	[14.9] 2.7	茶橙色	緻密	外：b <sub>1</sub> 手法 内：一段の放射 暗文	硬	1/3	
		10	环A	[18.4] 4.0	明茶橙 色	緻密 1mm以下の 砂粒含む	外：b <sub>1</sub> 手法 内：ロクロ削り	硬	ほぼ完 形	
		11	环C	[15.3] 4.3	茶橙色	緻密 ほとん どなし	外：e手法 内：ナデ	硬	1/8	墨書き
		12	环C	[14.8] 3.5	茶橙色	緻密 1mm以下の 砂粒含む	外：e手法 内：ナデ	やや硬	1/5	
		13	环C	[15.5] 3.6	茶橙色	緻密 1.5mm以下の 砂粒含む	外：e手法 内：ナデ	やや硬	1/2	
		14	环C	[16.0] 3.7	茶橙色	緻密 ほとん どなし	外：e手法 内：ナデ	やや硬	1/3	
		15	环B	[14.3] 3.7	濃茶橙 色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	外：ヨコナデ 内：一段の放射 暗文	硬	2/3	
		16	皿A	[18.9] 2.8	濃茶橙 色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	外：a <sub>1</sub> 手法 内：ナデ	やや硬	1/2弱	
		17	皿A	[22.4] 2.4	淡褐色	緻密 ほとん どなし	外：b <sub>1</sub> 手法 内：一段の放射 暗文	硬	1/5	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口径高 (推定) (残高)	色調	胎土	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
						素質 砂粒	外:外面 内:内面			
河川2	土師器	18	皿A	[24.4] 2.8	淡茶橙色	緻密 ほとんどなし	外: e手法 内:一段の放射暗文			
		19	碗	[14.2] 5.0	明灰橙色	やや緻密 砂粒多い	表面剥離のため 調整不明	やや軟	1/3	
		20	甕	[28.5] (10.1)	淡褐色	緻密 1mm以下の 砂粒含む	外:ハケメ 内:青海波文	硬	小片	煤付着
		21	甕	[28.2] (5.0)	褐色	やや緻密 砂粒多い	ハケメ ナデ	やや硬	小片	
		22	甕	[26.7] (5.6)	明褐色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	ハケメ ナデ	硬	1/6	煤付着
		23	甕	[24.1] (5.0)	灰褐色	緻密 2mm以 下の砂 粒含む	ハケメ ナデ	硬	1/6	煤付着
		24	甕	[18.5] (5.0)	淡桃褐色	緻密 4mm以 下の砂 粒含む	ハケメ ナデ	やや軟	1/8	
		25	甕	[16.5] (8.0)	褐色	緻密 3mm以 下の砂 粒含む		硬	6/1	煤付着

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口器 径高 〔 〕推定 〔 〕残高	色調	胎土	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
						素質 砂粒				
河川 2	土師器	26	甌	[21.5] 17.7	淡灰褐色	緻密 3mm以下の 礎合	ハケメ	やや硬	2/3	煤付着
		27	高坏	(30.0) (2.0)	橙色	緻密 1mm以下の 礎合	ナデ 放射暗文	硬	小	
		28	高坏	— (4.6)	橙色	緻密 2mm以下の 礎合	ヘラケズリ	硬	小	
須恵器	坏A	29	坏A	[12.9] 4.4	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ	硬	2/5	墨書き
		30	坏A	[12.8] 3.8	青灰色	緻密 1.5mm以下の 礎合	ロクロナデ ナデ	硬	3/5	
	坏A	31	坏A	[14.4] 3.1	青灰色	緻密 0.5mm以下の 礎合	ロクロナデ	硬	1/6	重ね焼痕
		32	坏A	[17.5] (3.2)	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ	やや硬	1/6	
	坏A	33	坏A	[18.4] 3.5	灰色	緻密 0.5mm以下の 礎合	ロクロナデ ロクロ削り	やや硬	1/3	重ね焼痕
		34	Ⅲ	[20.6] 5.0	青灰色	緻密 2mm以下の 礎合	ロクロナデ ロクロ削り	硬	1/2	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口器 〔 〕推定 ( )残高	色調	胎土 素質 砂粒	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川 2	須恵器	35	壺B	[13.0] 3.9	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ	硬	1/5	
		36	壺B	[14.7] 4.9	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ ロクロ削り	硬	1/5	
		37	壺B	[17.2] 4.5	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ	硬	小片	
		38	壺B	[17.2] (3.5)	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ ロクロ削り	硬	-	
		39	壺B	[14.3] (3.3)	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロ削り	硬	-	重ね焼き痕
		40	壺B	[19.5] (4.9)	灰色	緻密 0mm以下の 砂粒含む	ロクロナデ ロクロ削り	硬	-	
		41	壺B	[21.0] 6.2	灰色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	ロクロナデ ロクロ削り	硬	1/3弱	
		42	壺L	[4.4] (7.6)	青灰色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	ロクロナデ ロクロ削り	硬	-	
		43	壺L	[4.4] (9.8)	青灰色	緻密 2.5mm以下の 砂粒含む	ロクロナデ ロクロ削り	硬	-	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口器高 (推定) (残高)	径	色調	胎土 素質 砂粒	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川 2	須恵器	44	壺	— (7.2)	灰色	緻密 1mm以下の 砂粒含む	ロクロナデ ロクロ削り	やや硬	—		
		45	壺	[22.9] (16.0)	青灰色	緻密 3mm以下の 砂粒含む	タタキメ 青海波文	硬	1/4	自然釉 他の土器と の接地面	
		46	壺Q	[18.9] (8.0)	青灰色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	ロクロナデ ロクロ削り	硬	—		
		47	壺	— (3.5)	青灰色	緻密 1.5mm以下の 砂粒含む	ロクロナデ	硬	—		
瓦質		48	甕	[18.0] (5.5)	灰色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	ハケメ	硬	1/4		
		49	壺	[6.9] (4.5)	灰色	緻密 ほとんどなし		硬	1/2		
	須恵器	50	壺	[5.0] (4.3)	青灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ	硬	—		
		51	製塙土器	[15.9] (4.7)	黒茶色	粗 4.5mm以下の 砂粒含む	指オサエ	硬	小片		
		52	製塙土器	[16.0] (4.2)	桃褐色	粗 4.5mm以下の 砂粒含む	縦指ナデ	硬	小片		

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口径 ( )推定 ( )残高	色調	胎土 素質 砂粒	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川2		53	製塙土器	[9.7] (9.7)	黄灰色	粗 5mm以下の 砂粒多く 含む		軟	小片	
		54	製塙土器	[10.8] (3.0)	茶褐色	粗 3mm以下の 砂粒含む		軟	小片	
		55	製塙土器	— (2.7)	橙茶褐色	粗 5mm以下の 砂粒含む		軟	小片	
		56	製塙土器	— (6.0)	黄灰色	粗 1mm以下の 砂粒含む		軟	小片	
		57	製塙土器	— (4.1)	淡黄灰色	粗 2mm以下の 砂粒含む	指オサエ	軟	小片	
		58	製塙土器	— (3.2)	橙茶褐色	粗 3mm以下の 砂粒含む		軟	小片	
		59	製塙土器	— (4.2)	灰茶褐色	粗 4mm以下の 砂粒含む		軟	小片	
		60	製塙土器	— (3.6)	淡灰褐色	粗 4mm以下の 砂粒含む	指オサエ	軟	小片	粘土紐 接合痕
		61	製塙土器	— (6.1)	橙褐色	粗 2.5mm以下の 砂粒含む		軟	小片	粘土紐 接合痕

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口徑高 ( )推定 ( )残高	色調	胎土 素質 砂粒	調整:手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川2		62	製塙土器	— (5.2)	淡褐色	粗 3mm以下の 砂粒含む	指オサエ 指ナデ	軟	小片	
		63	製塙土器	— (4.2)	淡灰茶褐色	粗 3mm以下の 砂粒含む	継指ナデ	軟	小片	粘土紐接合痕
		64	製塙土器	— (5.2)	淡茶褐色	粗 3mm以下の 砂粒含む	指オサエ			
河川3	土師器	65	小皿	[7.5] 1.1	淡黄褐色	密	ナデ	硬	1/4	
		66	小皿	[9.0] 1.5	淡褐色	密	ナデ	硬	1/2	
		67	小皿	[8.7] 1.2	淡褐色	密	ナデ	硬	1/3	
		68	小皿	[8.5] 1.5	淡黄褐色	密	ナデ	硬	1/3	
		69	小皿	[9.2] 1.7	淡橙褐色	密	ナデ	硬	1/3	
		70	小皿	[9.5] 1.7	褐色	密	指頭圧痕・ナデ	硬	1/6	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口器径 〔推定〕 〔残高〕	色調	胎土 素質 砂粒	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川3	土師器	71	小皿	[9.6] 1.4	橙色	密	ナデ	やや軟	2/5	
		72	中皿	[14.1] 2.4	淡褐色	密	ナデ	硬	3/5	
		73	中皿	[13.7] 3.0	淡黄褐色	密	ナデ	硬	1/5	
		74	中皿	[16.5] 1.9	淡黄褐色	密	ナデ	硬	1/8	
	瓦器	75	皿	[9.3] 2.5	黒灰色	密 ほとん どなし	ナデ・指頭圧痕 ジグザグ状暗文	硬	1/3	
		76	皿	[9.7] 2.0	黒褐色	密 ほとん どなし	ナデ・指頭圧痕 ジグザグ状暗文	硬	1/2	
		77	皿	[8.7] 1.7	黒色	密 ほとん どなし	ナデ・指頭圧痕 ハケメ ジグザグ状暗文	硬	1/3強	
		78	皿	[9.5]	黒褐色	密 微小砂粒 を含む	ナデ 指頭圧痕 ジグザグ状暗文	硬		
		79	椀	[14.2] 5.2	黒褐色	密 ほとん どなし	へら磨き 連結輪状暗文	硬	1/2	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口径高 ( )推定 ( )残高	色調	胎土 素質 砂粒	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川3	瓦器	80	椀	[15.5] 4.6	黒褐色	緻密 ほとんどなし	へら磨き 連結輪状暗文	硬	1/5	
		81	椀	[14.0] 4.7	黒褐色	密 ほとんどなし	へら磨き 連結輪状暗文	硬	1/3	
		82	椀	[14.3] 4.2	黒褐色	密 ほとんどなし	へら磨き 連結輪状暗文	硬	1/8	底部外 面に線 刻
	磁器	83	白磁碗	[17.5] (2.7)	淡黄灰 白色釉 胎土淡 灰白色	緻密 ほとんどなし		硬	小片	
		84	青磁碗	[17.3] (3.8)	綠灰色 釉 胎土 淡灰色	緻密 なし		硬	小片	
		85	青磁碗	[14.7] 2.8	黄緑色 釉 胎土 灰色	緻密 なし	櫛描文	硬	小片	
	瓦質	86	香炉	— (8.3)	灰黑色	緻密 ほとんどなし	タテヘラミガキ ナデ	硬	欠損	
		87	壺	[18.3] (5.8)	灰褐色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	ナデ ハケメ	硬	小片	
		88	壺	[14.1] (6.8)	赤褐色	緻密 2mm以下の黒 い砂粒含む	ナデ 粘土ひも接合痕	硬	1/3	自然釉

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口器 ( )推定 ( )残高	色調	胎土 素質 砂粒	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川3	瓦質	89	甕	[23.3] (8.1)	茶褐色	緻密 3mm以下の 砂粒含む	ナデ	硬	小片	自然釉 常滑焼
		90	羽釜	[21.9] (6.0)	灰茶色	緻密 1mm以下の 砂粒含む	ハケメ	硬	1/8	
	須恵器	91	練鉢	[28.2] (10.3)	青灰色	緻密 8mm以下の 砂粒含む		硬	小片	
		92	練鉢	[28.3]	青灰色	緻密 3mm以下の 砂粒含む		硬	小片	
		93	練鉢	— (4.7)	灰色	密 2mm以下の 砂粒含む		硬	小片	
	土師器	94	練鉢	[38.3] (5.3)	青灰色	緻密 3mm以下の 砂粒含む		硬	小片	
		95	壺C	[15.6] 2.6	赤橙色	緻密 ほとん どなし	外: e手法 内: ナデ	やや硬	1/6	
		96	壺A	[16.3] 2.6	茶橙色	緻密 4mmの砂粒 含むが少量 である	外: e手法 内: ナデ	硬	1/8	
		97	壺A	[16.8] 2.5	茶橙色	緻密 ほとん どなし	外: e手法 内: ナデ	硬	小片	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口徑 〔推定 〔〔段高〕〕〕	色調	胎土	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
						素質 砂粒				
河川3	須恵器	98	壺A	[16.3] 3.6	灰色	緻密 ほとんどなし	ロクロナデ	硬	1/6	
		99	壺B	[15.7] 4.3	青灰色	緻密 3mmの砂粒 が小量含む	ロクロナデ	硬	1/6	
		100	壺	— (3.4)	灰色	緻密		硬		
	土師器	101	片口鉢	[37.1] (5.0)	橙色	緻密 3mm以下の 砂粒含む	ナデ	やや硬	小片	
		102	壺	[11.2] (6.6)	茶褐色	緻密 4mm以下の 砂粒含む	ヨコナデ ナデ	やや硬	1/4	
		103	壺	[13.1] (5.2)	淡茶褐色	やや密 2mm以下の 砂粒含む		やや軟	1/4	煤付着
		104	壺	[12.7] (4.5)	茶褐色	やや密 1mm以下の 砂粒含む		やや軟	1/6	煤付着
	須恵器	105	壺	— (4.9)	灰黒色	緻密 2mm以下の 砂粒含む	波状文	硬	—	
		106	壺	[24.3] 4.8	茶黒色	緻密 0.5mm以下の 砂粒含む		硬	小片	

遺構名	種類	図番号	器形	法量(cm) 口器 ( )推定 ( )残高	色調	胎土 素質 砂粒	調整・手法	焼成	口縁部 残存度	備考
河川 3	須恵器	107	器台	[36.2]	淡青灰色	緻密 2mm以下の 礎合	2条の凹線	硬	小片	

## 報告書抄録

フリガナ	ミナミノイセキハックツチョウサホウコクショ
書名	南野遺跡発掘調査報告書
副書名	サンマンション南野建設に伴う発掘調査
シリーズ名	四條畷市埋蔵文化財調査報告
編著者	野島 稔
編集機関	四條畷市教育委員会
所在地	Zip. 575 大阪府四條畷市中野本町1番1号 Phon.0720-77-2121
発行日	1995(平成7年)年3月31日

所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村					
ミナミノイセキ 南野遺跡	四條畷市 南野	272299	34°43'50"	135°38'52"	6年4月18日 7年3月31日	708m <sup>2</sup>	サン マンション 南野 建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南野遺跡	集落	古墳時代後期 奈良時代 鎌倉時代	河川 掘立柱建物 溝 土壤	埴輪 土器	土師器坏 須恵器坏 製塙土器 底部外面に墨書き

# 図版

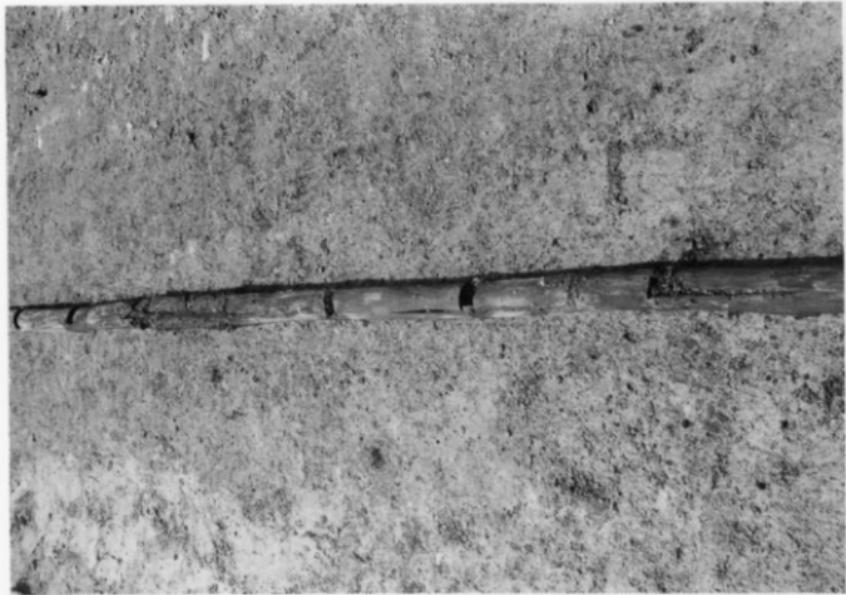


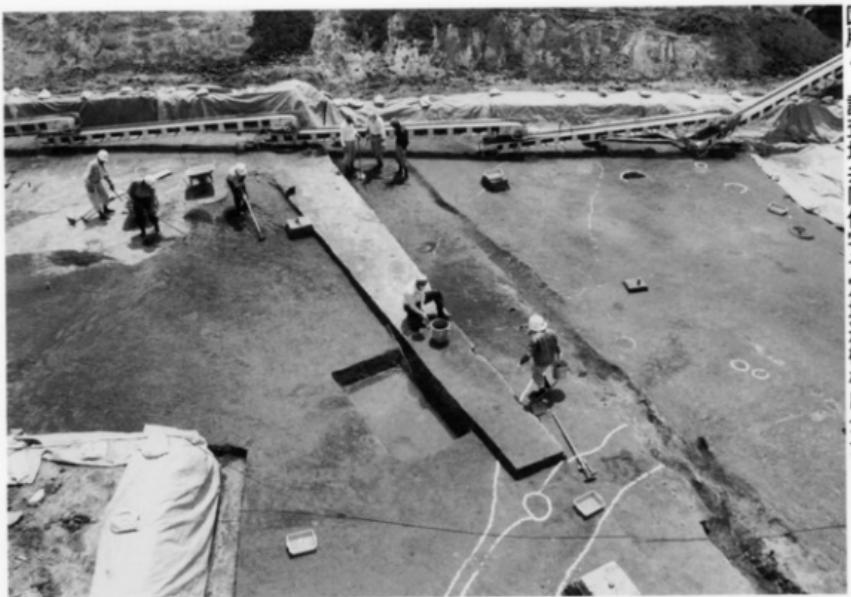
図版2 調査前全景・調査精査スナップ





(東から)





(西から)



(西から)



(西から)



(西から)



(西から)



(南西から)



(南から)



(西から)



(東から)



(東から)



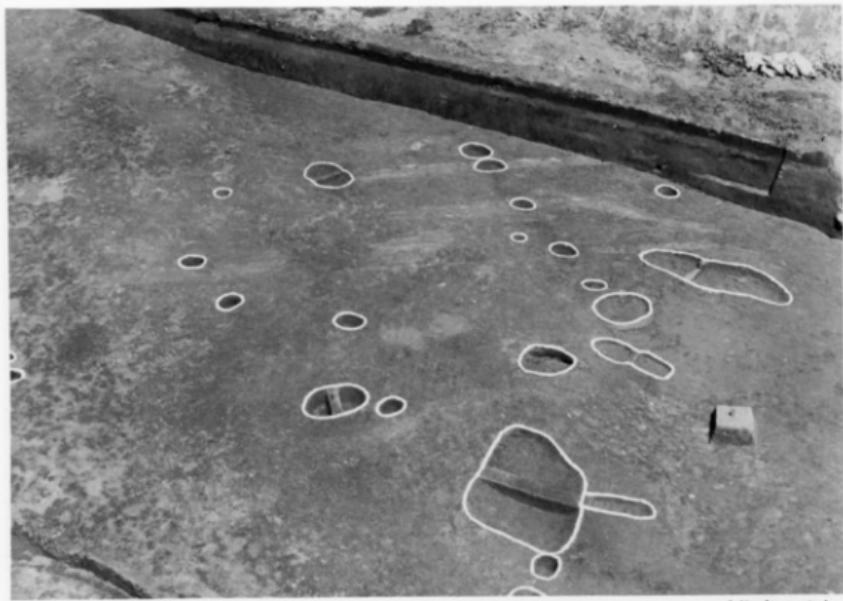
(東から)



(北東から)



(北西から)



(北東から)



(東から)



(北から)

調査地（地下合併処理槽・擁壁）遺構全景



(南から)



(北から)

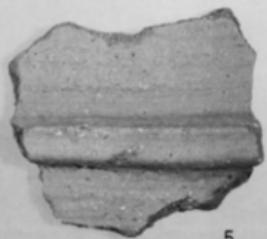
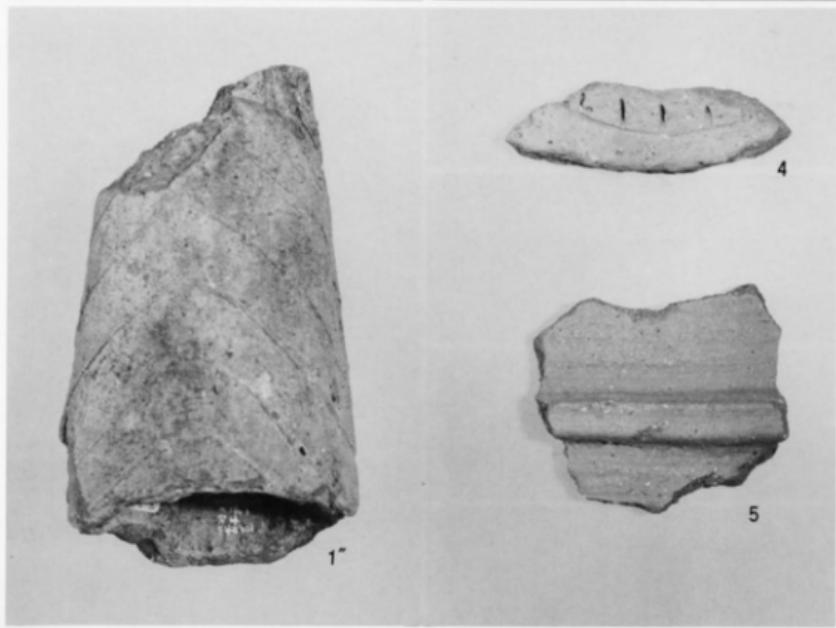
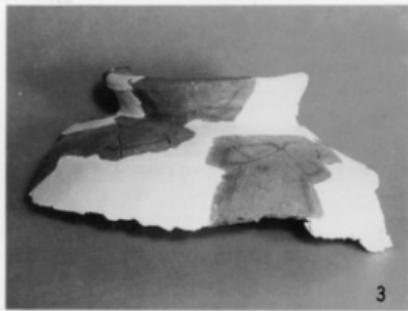


(西から)



(北西から)

図版 14 河川 1 内出土土器





6



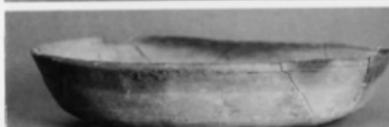
8



6'



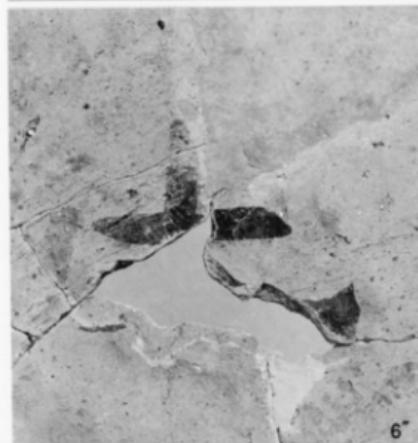
9



10



12



6''



13



14



15



7



16



11



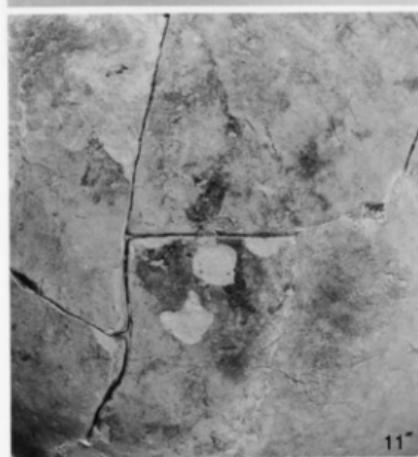
18



11'



19



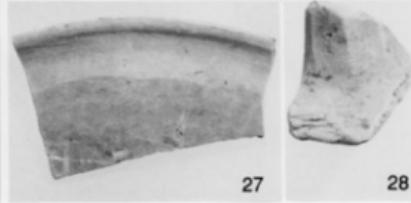
11''



26



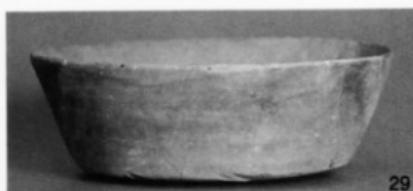
17



27



28



29



30



29'



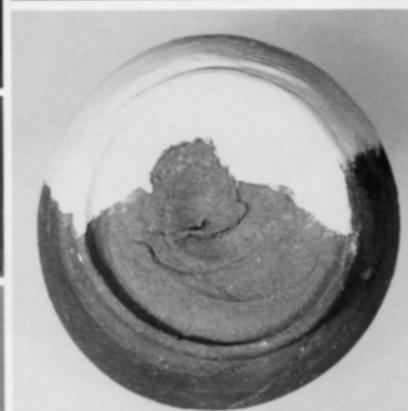
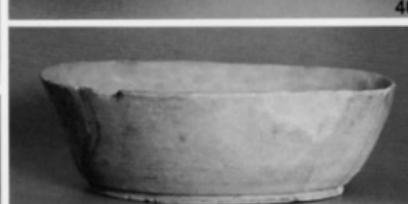
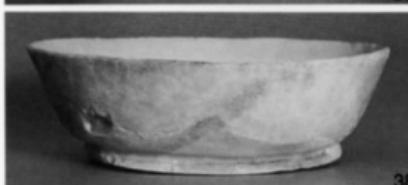
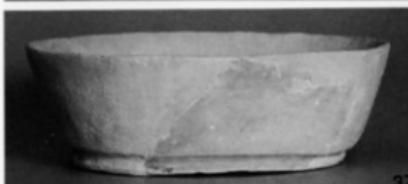
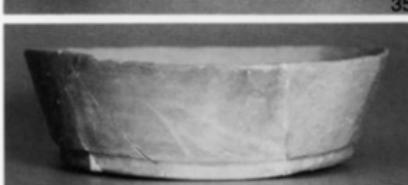
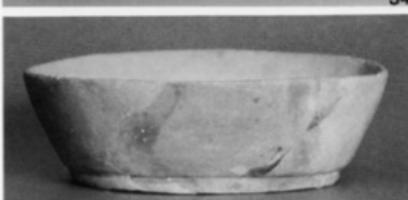
31



32



29'





43



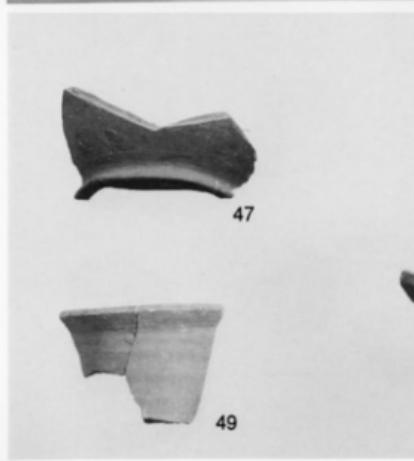
44



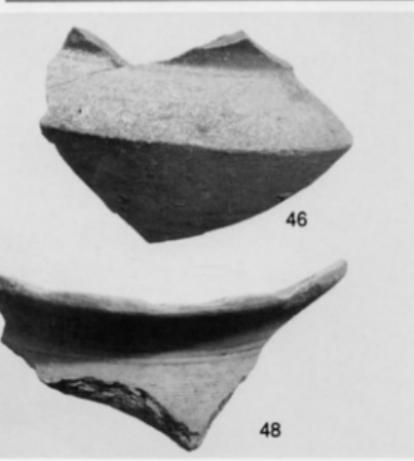
43'



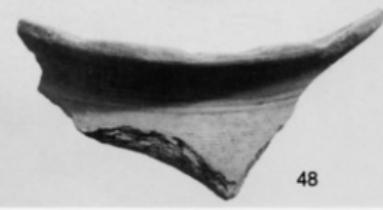
45



47



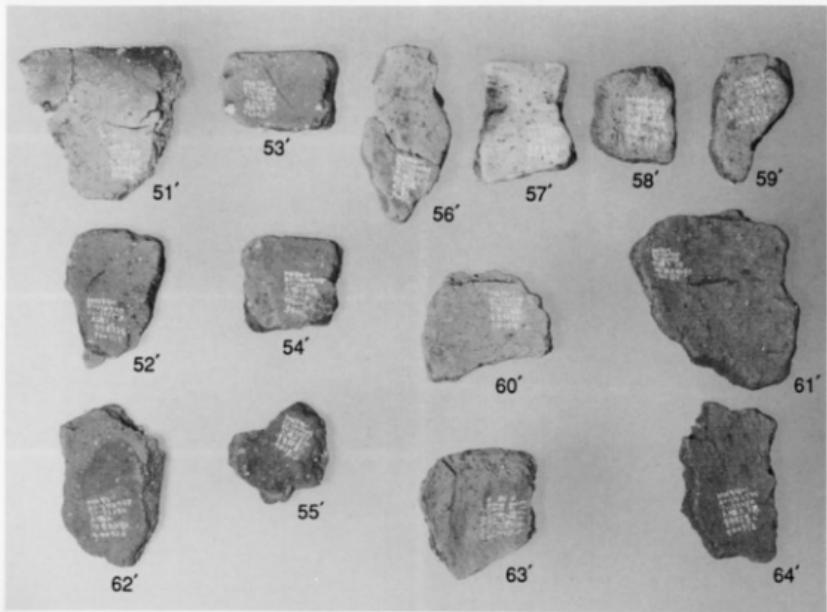
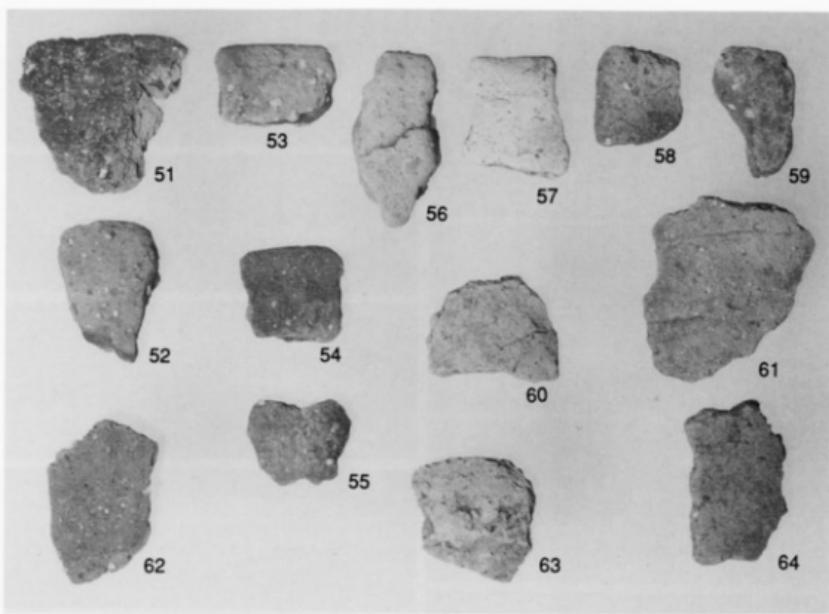
46

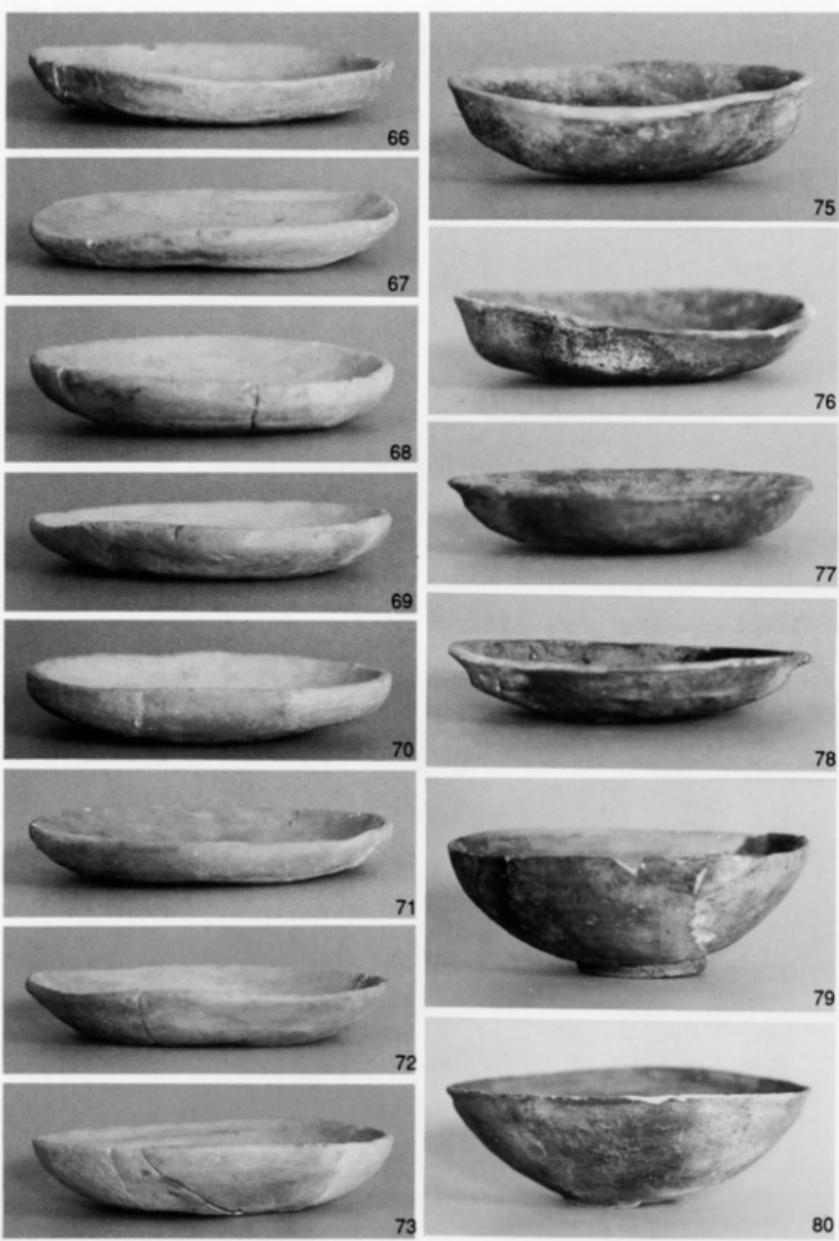


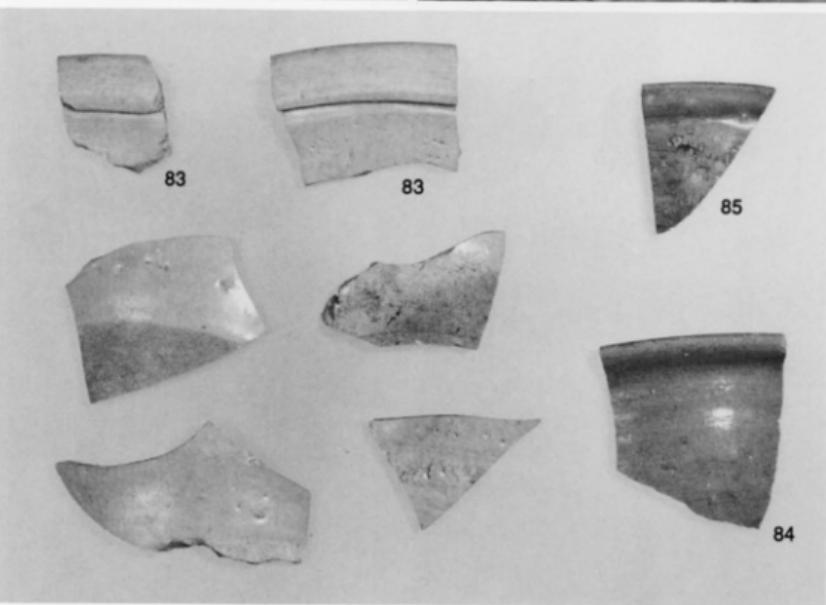
48

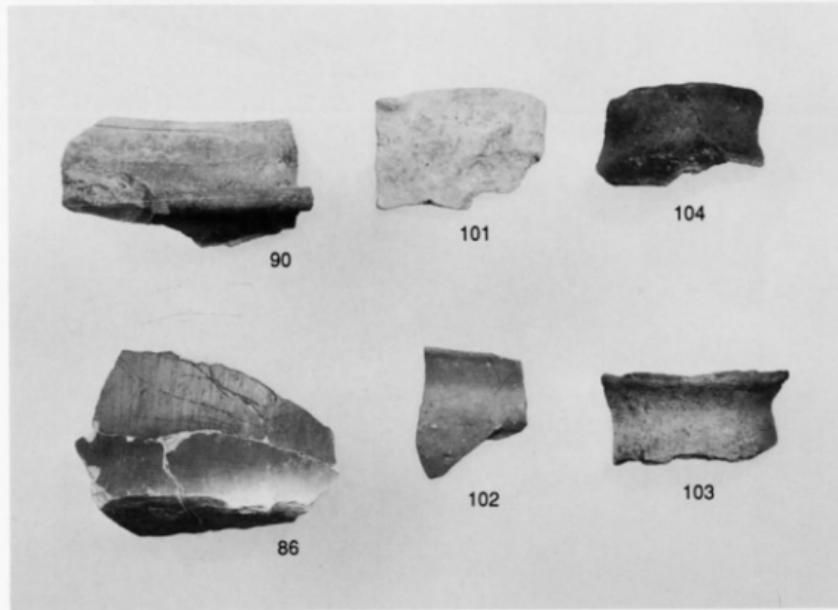
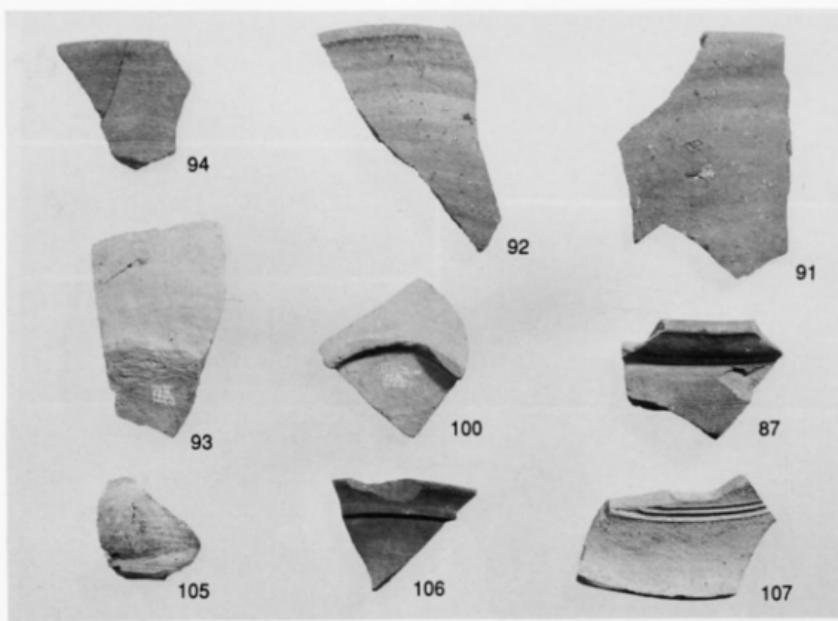
49

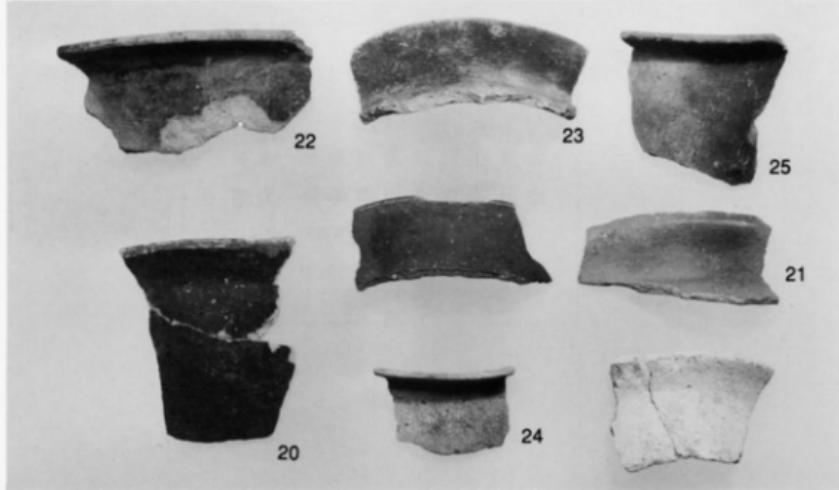
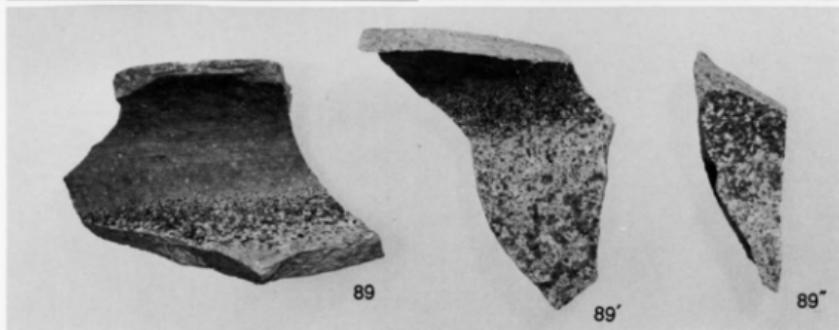
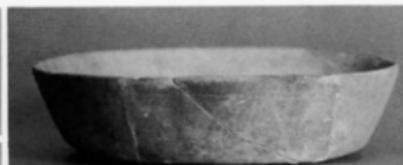
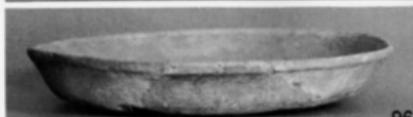
圖版20 河川2內出土土器











## 南野遺跡発掘調査概要

平成7年3月発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会

四條畷市中野本町1-1

印刷 株式会社共英印刷所